

社会福祉法人 南あわじ市社会福祉協議会
令和7年度 事業報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)



「みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち
～つなぐ つながる つなぎあう～」

活動目標①「自分たちが暮らす地域のことを知ろう」

<活動の目的・ねらい>

地域での助け合い、見守りをすすめる上で、人・場所・活動など、まずは自分たちの住んでいる地域のことを知ることが大切です。地域の人や活動に興味を持ち、知ることができるきっかけづくりをすすめます。

●今ある活動を広く伝えよう 【共同募金配分金・会費】

■広報わかばの発行

発行回数	4 回
発行部数	49,200 部

※新聞折込による。沼島地区は、出張所を通じて配布。

■ボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりの発行

発行回数	12 回（毎月）
発行部数	7,400 部

地域福祉活動や社協の活動、ボランティアに関する情報を発信しました。毎月発行のボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりは、公共施設や関係機関、金融窓口、コンビニに設置いただくなど、活動を広く伝えていきます。

■Facebook、インスタグラムの更新

更新、アップロード回数	73 回
-------------	------

●地域の歴史や活動に興味を持とう

■市民交流センターとのネットワークづくり

■地域づくり協議会への参画

■地域単位での会議等への参画



【緑地域】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問……	12 回
・民協の会議や活動に参加……	6 回
・自治会の会議や活動に参加……	2 回
・老人会などの活動や会議に参加……	1 回
・地域づくり協議会などの会議に参加……	7 回
	28回
令和7年度も「つながりワーカー養成講座」を開催し、受講生を対象とした「つながり座談会」を2ヵ月に1回定期的の実施しました。座談会では、「耳の聞こえづらい方とのコミュニケーションの取り方を学びたい」「地域の子どもたちや若い世代との関わりが薄くなった」との意見がありました。今後も、当事者と顔を合わせる場を設け、座談会を通じて出た地域課題を地域福祉推進ネットワーク会議や、地域づくり協議会で共有しながら、誰もが気に掛け合い、安心して暮らせる地域づくりをすすめていきます。	

【西沢地域】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…… 84 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 15 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 2 回 ・老人会などの活動や会議に参加…………… 3 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 13 回 毎月、第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問し、情報収集に努めました。湊地区の地域づくり協議会・環境防犯部会へも、継続的に参加しています。また、令和6年度と比べ、地域の会議やイベントなどに参画する機会も増えてきました。日頃からの関係性を大切にしながら、地域住民やボランティア、各種団体等とのつながりづくりをすすめてきた成果だと考えています。今後も引き続き、各地区のイベントなどへ積極的に参加し、地域のニーズに応じた地域支援を実施していきます。	117回

【三原地域】

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…… 120 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 16 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 8 回 ・老人会などの活動や会議に参加…………… 2 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 15 回 毎月、第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問し、情報共有に努めました。榎列倭文地区・八木地区・市地区の地域づくり協議会に委員として参画し、地域の現状を把握・共有しています。また、各地区の敬老会などの地域行事に積極的に参加し、地域住民との顔の見える関係づくりをすすめました。さらに、地域課題やニーズの把握に努め、関係機関との連携を強化して支援体制の充実を図りました。地域行事への参加を通じて、住民が安心して暮らせる地域づくりの一助となるよう努めました。	161回

内容	回数
・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問…… 36 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 9 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 6 回 ・老人会などの活動や会議に参加…………… 0 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 1 回 令和7年度は、「つながりワーカー養成講座」の受講生を対象とした「つながり座談会」を、北阿万地区でも定期的に開催しています。座談会で「子どもたちと話す機会が減った」「移住者が増えたが関わるきっかけがない」などの意見があったため、小学生や移住者にも座談会に参加していただき、困りごとなどについて話し合い、顔を合わせる機会を設けました。当事者を交え話し合ったことで、「地域で何かできることはないか?」「今度は学校で座談会をしたい」などの意見がありました。今後も身近な地域での見守り活動をすすめるため、「つながりワーカー養成講座」と「つながり座談会」を開催していきます。	52回

●井戸端会議のしやすい環境をつくろう 【善意銀行】



■地域福祉事業助成金の活用と財源の確保

善意銀行については、地域福祉財源として、より一層の有効活用や寄附者の思いを地域に還元できるしくみづくりのために、善意銀行補助事業の運営要綱等の見直しを行いました。身近な地域で寄附が循環していることを知っていただくことで、財源の確保にもつなげていきます。



【年4回発行の広報わかは】

活動目標②「お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめよう」

<活動の目的・ねらい>

自分たちの地域に暮らす人のことを知り、自分の思いや考えを伝えるなど、地域を「我が事」として考えていくことが大切です。学校だけでなく、地域や企業でも積極的に福祉学習を取り入れ、お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめます。

●地域で研修会・学習会をすすめよう 【共同募金配分金・会費】

【みどり】

11月24日（祝）にみはら支部運営委員会と合同で、「みどり・みはらふれあい福祉のつどい2025」を淡路ふれあい公園内にて開催しました。また、1月15日（木）には、倭文小学校と協働で倭文地域防災訓練を実施しました。参加者からは、「災害時、誰一人取り残さないためにも継続的な訓練が必要」「子どもたちが地域の力になった」などの声が寄せられました。緑地域では、定期的に「つながり座談会」を開催しており、外国籍の方や耳が聞こえづらい方など当事者の生活課題を共有しています。今後も身近な地域の課題を話しあい、地域福祉推進ネットワーク会議にて共有し、地域の実情に応じた事業を実施していきたいと考えています。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R7.5.22	第1回 ・支部長、副支部長の選出 ・年間計画について 福祉のつどいは他支部との合同実施を検討 防災カフェの内容は訓練などの実践にて実施	12名
R7.7.24	第2回 ・福祉のつどいについて みはら支部と合同で実施、8月に実行委員会を開催 ・防災研修について 1月に倭文小学校と合同で避難訓練を実施予定	11名
R7.9.18	第3回 ・共同募金依頼事業所について ・倭文小学校との防災訓練について	11名
R7.12.25	第4回 ・倭文地域防災訓練の当日スケジュール 参加依頼について	13名
R8.3.16	第5回 ・令和7年度の振り返り 実施した事業およびつながり座談会の実績報告 ・地域福祉推進ネットワーク会議について	11名

■みどり支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R7.10.16	・募金協力員の選任について ・令和6年度事業報告、令和7年度事業計画について ・募金活動の推進について ・班編成ならびに事業所訪問について	24名

■みどり・みはらふれあい福祉のつどい2025実行委員会

月日	内 容	出席者数
R7.8.28	第1回 ・実行委員会の設置について ・役員の選任について ・実施計画（案）、予算（案）について	23名
R7.9.18	第2回 ・実施計画について ・タイムスケジュール、役割分担について ・周知・広報について	22名
R7.11.13	第3回 ・タイムスケジュールについて ・当日の役割分担について	23名
R7.12.25	第4回 ・会計監査報告 ・ふれあい福祉のつどいの振り返り	23名



【みどり・みはらふれあい福祉のつどい2025】

【せいだん】

2ヵ月に1回、せいだん支部運営委員会を開催しました。令和7年度は委員改選があり、7名が新しく委員会に参画しました。第1回目に、年間の活動計画を作成し、計画に沿って活動をすすめました。10月～11月にかけて共同募金活動の実施、11月30日（日）に「第12回せいだんふれあい交流のつどい」を実施しました。その他にも、委員会で継続して情報共有を行うことができ、地域の活動を知る場・共有する場にもなっています。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R7.5.29	第1回 ・支部長、副支部長、評議員の選任 ・社会福祉協議会の活動について ・令和7年度の活動計画について ・地域の情報共有	18名
R7.7.24	第2回 ・せいだんふれあい交流のつどいについて ・今年度の活動計画について ・地域の情報共有	10名
R7.9.25	第3回 ・せいだんふれあい交流のつどいについて ・地域の情報共有	10名
R7.11.19	第4回 ・せいだんふれあい交流のつどいについて （タイムスケジュール、役割分担などの確認） ・地域の情報共有	13名
R8.1.21	第5回 ・せいだんふれあい交流のつどいの振り返り 監査報告 ・地域の情報共有	8名
R8.3.18	第6回 ・令和7年度の振り返りおよび令和8年度の活動に向けて ・地域福祉推進ネットワーク会議について ・地域の情報共有	10名

■せいだん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R7.9.25	・令和6年度事業報告および実績報告 ・令和7年度事業計画 ・令和7年度大口募金の法人等依頼事項について	10名

■せいだんふれあい交流のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R7.11.19	・実行委員長、副実行委員長、会計監査人の選任 ・当日の役割分担、タイムスケジュール、準備物などの確認	13名

【みはら】

令和7年度は委員改選があり、新たなメンバーを迎えて地域福祉の充実に向けた協議を重ねました。上半期には、みどり支部運営委員会と協働で「みどり・みはらふれあい福祉のつどい実行委員会」を立ち上げ、11月24日（祝）に「みどり・みはらふれあい福祉のつどい2025」を開催しました。誰もが参加しやすい運営を目指して意見交換を行い、地域のつながりづくりに取り組みました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R7.6.23	第1回 ・南あわじ市社会福祉協議会について ・みはら支部運営委員会について ・令和6年度事業報告、令和7年度事業計画について ・地域福祉フォーラムについて	12名
R7.7.30	第2回 ・「みどり・みはらふれあい福祉のつどい実行委員会」の立ち上げについて	12名
R8.3.26	第3回 ・令和7年度の振り返り ・令和8年度について ・地域福祉推進ネットワーク会議について	9名

■みはら支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R7.9.18	・令和6年度事業報告および実績報告 ・令和7年度事業計画 ・街頭募金活動について	12名

【なんだん】

実行委員会を組織し、11月8日（土）に「なんだん福祉まつり」を実施し、多くの方に来場いただきました。また、福良、賀集、北阿万地区で開催している「つながり座談会」で「移住してきた方の困りごと」や「子どもたちと顔を合わせる機会がなくなった」など、住民が感じている地域の課題を共有しました。今後は、令和8年度からスタートする地域福祉推進ネットワーク会議にて、共有した課題の解決に向け協議を重ね、地域の実情に応じた事業を実施していきたいと考えています。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R7.5.20	第1回 ・支部長、副支部長の選出 ・年間計画について ・各地区の情報交換、民生委員活動、地域福祉活動について	17名
R7.7.22	第2回 ・なんだん福祉まつりについて 11月8日（土）賀集地区公民館にて開催 ・各地区の情報交換、民生委員活動、地域福祉活動について	15名

R7.10.28	第3回 ・なんたん福祉まつりの役割分担、周知について ・各地区の情報交換、民生委員活動、地域福祉活動について	12名
R7.12.23	第4回 ・なんたん福祉まつりの振り返り、監査報告 ・各地区の情報交換、民生委員活動、地域福祉活動について	12名
R8.3.17	第5回 ・令和7年度の振り返り 実施した事業およびつながり座談会の実績報告 ・地域福祉推進ネットワーク会議について	10名

■なんたん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R7.9.16	・令和6年度事業報告および実績報告 ・令和7年度事業計画 ・募金活動の推進について	15名

■なんたん福祉まつり実行委員会

月日	内 容	出席者数
R7.8.26	第1回 ・実行委員会の設置について ・役員の選任について ・実施計画（案）、予算（案）について	13名
R7.9.16	第2回 ・実施計画の確認 ・周知および広報について ・役割分担について	15名
R7.10.28	第3回 ・当日のタイムスケジュール、役割分担について ・前日準備、雨天時の対応について	12名
R7.12.23	第4回 ・会計監査報告 ・なんたん福祉まつりの振り返り	12名

■各支部まつり

月日	まつり名	内 容	会場
R7.11.24	みどり・みはら ふれあい 福祉のつどい 2025	野外ステージ、お楽しみコーナー、キッチンカーなど	淡路ふれあい公園内 駐車場
R7.11.8	令和7年度 なんたん福祉まつり	舞台発表、お買い物マルシェ、体験ワークショップ、卓球バレー体験会など	賀集地区公民館
R7.11.30	第12回せいだん ふれあい交流の集い	舞台発表、バザー、花苗・多肉植物の販売、餅つき、ぜんざいのふるまい、各種団体啓発など	湊地区公民館

■地域福祉フォーラム

地域共生社会の実現に向け、さまざまな立場や所属の地域の方との連携・協働による取り組みが身近な地域に広がることを目指し、地域福祉フォーラムを開催しています。

令和7年度は、「ひろがる居場所 つながる笑顔」と題し、誰もが集える居場所づくりに焦点を当て実施しました。

月日	内 容	出席者数
R8.3.7	地域福祉フォーラム ～ひろがる居場所 つながる笑顔～ 倭文永田邸・阿万吹上町自治会からの実践報告 ファシリテーター 武庫川女子大学 松端克文教授	120名

■福祉の出前講座

各地区で展開しているサロンや集いに講座を手法とし、職員が参加しました。地域の情報を把握し、地区カルテに記入していくことができました。

講座メニュー	具体的な内容	回数
レクリエーション	各地区で開催されているふれあい・いきいきサロンにて、工作や体操などの指導	65回
防災（支え合い）マップづくり	マップ作りなどを通して地域の防災意識の向上を目的に実施	2回
講習その他	サロンでビデオなどを活用し、人権意識や健康意識の向上を目的に実施	9回

【地域福祉フォーラム】



【福祉の出前講座】



●地域で福祉学習をすすめよう

■学校での福祉学習

月 日	内 容	学校・事業所名
R7.5.15	アイマスク・白杖体験学習	神代小学校 アフタースクール
R7.5.22	手話体験、認知症サポーター養成講座、高齢者疑似体験学習	南淡中学校
R7.6.4	アイマスク・白杖体験学習	市民協働課
R7.6.11	アイマスク・白杖体験学習、車いす体験学習	広田中学校
R7.6.12	アイマスク・白杖体験学習	榎列小学校 アフタースクール
R7.6.13	車いす体験学習	広田中学校
R7.6.19	車いす体験学習、高齢者疑似体験学習	淡路交通バス福良営業所
R7.6.23	車いす体験学習	倭文小学校
R7.6.24	アイマスク・白杖体験学習	賀集小学校
R7.7.9	手話体験学習	倭文小学校
R7.7.17	アイマスク・白杖体験学習	北阿万小学校 アフタースクール
R7.9.8	アイマスク・白杖体験学習	倭文小学校
R7.9.18	車いす体験学習	辰美小学校
R7.9.18	高齢者疑似体験学習	賀集小学校
R7.9.19	知的障がい者疑似体験学習	神代小学校
R7.9.24	ユニバーサルスポーツ（車いすバスケットボール）	倭文小学校
R7.10.15	手話体験学習	湊小学校
R7.10.22	アイマスク・白杖体験学習	湊小学校
R7.10.24	視覚障がいの理解について（カードゲーム、ポッチャ）	八木小学校
R7.10.29	車いす体験学習	市小学校
R7.11.7	アイマスク・白杖体験学習	神代小学校
R7.11.12	ユニバーサルスポーツ（ゴールボール）	市小学校
R7.12.3	ユニバーサルスポーツ（ゴールボール）	倭文小学校
R7.12.5	車いす体験学習	北阿万小学校
R7.12.23	高齢者疑似体験学習	西淡中学校
R8.1.16	倭文地域防災訓練	倭文小学校
R8.1.19	手話体験学習	榎列小学校
R8.1.23	車いす体験学習	神代小学校
R8.1.23	アイマスク・白杖体験学習	広田小学校
R8.1.28	ユニバーサルスポーツ（ゴールボール）	阿万小学校
R8.1.28	手話体験学習	福良小学校
R8.2.5	車いす体験学習	広田小学校
R8.2.12	高齢者疑似体験学習	福良小学校
R8.2.13	車いす体験学習	福良小学校
R8.2.16	車いす体験学習	志知小学校
R8.2.17	点字体験学習	志知小学校
R8.2.20	アイマスク・白杖体験学習	福良小学校

R8.2.24	点字体験学習	八木小学校
R8.2.24	車いす体験学習	賀集小学校
R8.2.27	アイマスク・白杖体験学習	市小学校
R8.3.11	アイマスク・白杖体験学習	榎列小学校
R8.3.16	車いす体験学習	榎列小学校



【小学校での車いす体験学習】

【福祉学習講師派遣活用状況】

対象	件数	助成額
小学校（アフタースクールを含む）	39 件	190,000 円
中学校	4 件	25,000 円
高等学校	0 件	0 円
専門学校	0 件	0 円
大学	0 件	0 円
事業所・市役所	2 件	5,000 円

■企業・事業所での福祉学習

市民交流センター長、センター職員および総合窓口センター職員を対象に、視覚障がい者の誘導案内、窓口対応を目的とした学習会、また淡路交通バス福良営業所の職員を対象に、車いす利用者の誘導ならびに高齢者疑似体験学習を実施しました。今後は、企業・事業所と学校と一緒に体験学習を実施するなど横のつながりを意識し、当事者の理解をすすめるための福祉学習の啓発を行っていきます。

■当事者理解を深める学習

赤い羽根共同募金配分金を講師派遣費用として活用することで、地域・学校での福祉学習の拡充に努めました。令和7年度は、市内小中学校17校、事業所・市役所2事業所で延べ43回の講師派遣や物品の貸出を実施しました。また、学校、事業所だけではなく、アフタースクールでも実施し、福祉体験学習の場が広がりました。

既存のプログラムだけではなく、ユニバーサルスポーツや障がいのある方との交流会などの依頼があり、福祉学習の進め方に変化が見られています。今後も、学校や事業所の実情に応じた体験プログラムを展開していきます。

■福祉学習デザインワークショップ

月 日	内 容	参加者
R7.8.22	先生と当事者が顔を合わせ、学校が福祉学習を通じて子どもたちに学んでほしいことや当事者が子どもたちに伝えたいこと、体験学習を受けた子どもたちの実践の場づくりなどについて話し合いました。	各学校 福祉学習担当教諭 障がいのある当事者 計10名

■サマーチャレンジボランティア

高校生、専門学校生、大学生、移住者など延べ28名が、地域のイベントや福祉施設など11カ所で活動しました。参加者からは、「子どもたちと触れ合え、楽しく活動できた。これからの生活や学業に活かしていきたい」などの感想が寄せられました。

受入施設からは、「ボランティアが来てくれることで利用者の表情が明るくなり、私たちも一緒に楽しめた。これからも積極的に受け入れたい」などの声をいただきました。

今後も一人でも多くの方がボランティア活動に興味をもってもらえるように、朗読や傾聴などのテーマごとの講座開催や、ボランティアセンターだよりなどを通じて活動紹介や啓発活動をすすめます。



【ギョギョタウンでのボランティア】

活動目標③「地域で活躍できる人を増やそう」

<活動の目的・ねらい>

高齢化や人口減少から、地域の担い手不足が大きな課題となっています。住民による地域づくり活動を広げていくためにも、これまでの活動者への支援に加え、新しい層への働きかけや幅広い世代が活動に関われるきっかけづくりをすすめていきます。

●新しい人材を見つけるきっかけづくりをすすめよう

■ボランティア災害共済加入の手続き

ボランティア活動中の事故に備え、安心して活動が行えるよう「ボランティア・市民活動災害共済」などの加入促進を図りました。

種 別	人（件）数	掛金
兵庫県ボランティア・市民活動災害共済	673 人	337,000 円
兵庫県ボランティア活動等行事用保険	8 件	9,000 円
兵庫県移送サービス交通傷害保険	25 名	14,300 円

■県民ボランタリー活動助成等の広報と活用

広報わかば、ボランティアセンターだよりを通じて助成金情報を周知し、46グループからのエントリー申請を受理しました。ボランティア活動が円滑に行えるように支援していきます。

■朗読ボランティア初級講習会

視覚障がい者や視力が低下した高齢者に、音声による情報提供を行うボランティアを育成することを目的として、講習会を実施しました。朗読ボランティア経験者も多く参加していましたが、基礎的な内容から学ぶことができ、講座最終日にはミニ発表会も開催することができました。

また、「長期的に朗読について学べる機会がほしい」「中級講座の開催もあればよい」などの意見をいただいたことから、令和8年度以降の講座内容の充実について検討していきます。

期間	講師	参加者数	場所
R8.1.15～3.19	デイジー淡路 瀧川 さよ子 氏	10名	広田地区公民館

●活動者の交流の輪を広げよう 【共同募金配分金】

■リーダー交流会

「あそびの工房もくもく屋」代表・田川雅規氏を講師にお迎えし、地域における居場所づくりのヒントについて学びました。また、ふれあい・いきいきサロンでの活動や悩みなどを共有し、今後のサロン活動に活かせる内容となりました。

月日	内容	参加者数	場所
R7.7.29	初めて会う方とも楽しみながらできる遊びや意見交換を行い、サロンで活用できる簡単なゲームも教えていただきました。また、「自分の地域にも通いの場が欲しい」「地域活動に参加してみたい」といった方々にもご参加いただき、サロンの輪をさらに広げることができました。	64名	榎列公民館

●生活を支える担い手を増やそう

■新しい事業への取り組み

内 容
地域の方から「使い終わったのぼり旗を再生したい」との相談を受けたことをきっかけに、のぼり旗を提供してくれる企業や地域団体・行政との連携、地域へ縫い子募集の啓発を行っています。現在は、「のぼり旗リメイクプロジェクト」として4名の縫い子さんがリメイクバッグの製作活動をしています。手作業で仕上げる世界に一つだけの作品で、SDGsにも貢献しながら、今後も縫い子さんボランティアとともにリメイクバッグのデザイン・サイズを多様化し、販路を広げていきます。

■おもいやりポイント制度

南あわじ市生涯活躍推進室が推進する「高齢者等元気活躍推進事業」は、シニア世代の多様な社会参加の機会を創出することを目的としています。事業に参加される高齢者等が安心して活動できるよう、南あわじ市社会福祉協議会では、活動者の安全確保の一環として、ボランティア保険への加入を推奨しています。保険加入にあたっては、制度説明会や相談会開催時に、出張受付による申込支援を実施し、活動者がより安心して地域貢献活動に取り組める環境づくりをすすめています。

◇出張受付による加入申込支援

月日	場所	相談会名	登録者数
R7.4.25	南あわじ市役所	シニアの生涯活躍総合相談窓口	—
R7.7.11	南あわじ市役所	思いやりポイント制度説明会・相談会	1名
R7.8.6	ショッピングセンターシーバ	思いやりポイント制度説明会・相談会	1名
R7.9.8	南あわじ市役所	思いやりポイント制度説明会・相談会	—
R7.10.16	南あわじ市役所	思いやりポイント制度説明会・相談会	—
R8.1.14	南あわじ市役所	思いやりポイント制度説明会・相談会	1名
R8.2.9	南あわじ市役所	思いやりポイント制度説明会・相談会	—
R8.3.26	榎列公民館	思いやりポイント制度説明会・相談会	18名



【リーダー交流会】



【朗読ボランティア初級講習会】



【リメイクバック】

活動目標④「誰でも参加できる居場所を増やそう」

<活動の目的・ねらい>

地域の中で孤立する人をなくすためにも、誰かとつながることができるきっかけづくりや、参加できる居場所が必要です。さまざまな形で参加できる居場所、助け合い活動を広げる居場所を、地域の中に増やしていきましょう。

●その人に合わせた「働く場」を増やそう

■働く場の創出

高齢者や障がい者、生活困窮者など属性にとらわれることなく、身近な地域に自己実現できる場があること、誰にも自分に応じた活躍の場があること、地域の中での役割があること、そんな南あわじ市にできるように関係機関との協議を重ねています。

令和7年度は、市で超短時間雇用創出プロジェクトが開始され、「働きたい」気持ちを応援できるしくみができました。一人ひとりのニーズを把握しながら、必要な情報提供を行い地域の中で活躍できるよう、当事者とプロジェクトのつなぎ役として活動しています。

●同じ思いの人がつながりあえる居場所を増やそう 【共同募金配分金・補助金、受託金】

■ふれあい・いきいきサロン

誰もが地域で元気に暮らせるように、身近な地域で集える場づくりを推進しています。コロナ禍で集まることに制限がかかった時期を乗り越え、人と人がつながり合うことを大切に各地域でさまざまなサロンが活動しています。継続した活動が行えるように支援していきます。

- 【緑エリア】 16カ所（新規1カ所、終了1カ所）
- 【西淡エリア】 33カ所（新規6カ所、終了2カ所）
- 【三原エリア】 14カ所（新規2カ所）
- 【南淡エリア】 30カ所（新規5カ所、終了2カ所）



■つながりサロン

当事者が交流できる場として、定期的を開催していく大切さを実感しています。また内容については参加者ととも考え、2ヵ月に1回程度、開催しています。

月日	内容	参加者数	場所
R7.4.5	みんなでお花見	11名	諭鶴羽ダム 市地区公民館
R7.6.28	寄せ植え体験	5名	市地区公民館
R7.8.30	折り紙ですてきな飾り箱を作ろう！	9名	市地区公民館
R7.11.22	季節の花々を見ながらみんなでパン作りを楽しもう！	8名	淡路ファーム パークイングラ ンドの丘
R7.12.20	クリスマス会（調理実習・音楽療法）	10名	ふらっとほっむ
R8.2.7	おしゃべり会	11名	ふらっとほっむ

■スポーツ交流教室

障がいのある当事者の方からも「またみんなでスポーツをしたい」との声があり、令和7年度も卓球バレー交流大会やつながりフットサル交流大会へ参加しました。

月日	内容	参加者数	場所
R8.2.7	南あわじ市卓球バレー交流大会	7名	南あわじ市文化 体育館
R8.2.21	つながりフットサル交流大会	7名	定住交流促進セン ター「鮎愛館」



【南あわじ市卓球バレー交流大会】



【つながりフットサル交流大会】

■音声パソコン教室

視覚障がい者がパソコン操作やインターネットなどを学ぶことで、情報を自ら得て新たにつながりを持つことや、当事者が地域で自分らしく暮らすことができるようになることを目指して実施しています。

参加者個々のニーズにあわせて、パソコンの操作・設定方法だけではなく、タブレットや視覚補助器具などの使用方法なども学び、参加者間での情報共有も行いました。参加者のニーズを聞きながら、今後の開催方法についても検討をすすめます。

月日	内容	参加者数	場所
R7.4.13	音声データの保存方法、データの入力方法について	7名	市地区公民館
R7.5.10	参加者間での情報共有	7名	市地区公民館
R7.6.14	インターネットサイトの使い方について	7名	市地区公民館
R7.7.19	パソコンの基本的な操作方法について	7名	市地区公民館
R7.8.16	通販サイトの使い方について	5名	市地区公民館
R7.9.13	視覚補助具の情報共有、タブレットの使い方について	7名	市地区公民館
R7.10.11	フォルダの作成方法および整理方法、近況報告	8名	市地区公民館
R7.11.7	データの整理方法について	3名	市地区公民館
R8.1.17	タブレットの使い方、Wordの使い方について	8名	市地区公民館
R8.2.14	音声データの移行方法、Word・Excelの使い方について	6名	市地区公民館
R8.3.14	健康に関する相談、新しいパソコンの使い方について	8名	市地区公民館

■よかサークル「あつまらんか！」

保護者や兄弟姉妹同士の余暇支援やつながりづくりを目的に毎年実施しています。この企画には地域のボランティアにもご協力をいただいております。障がいのある子どもたちと地域のボランティアが交流する機会にもなっています。そして交流を通して相手の立場になって考えたり、他人を思いやる優しさを育む場にもなっています。また、事業の中で保護者は子どもたちの様子を見ながら、保護者同士で日頃の生活や進路などについて語り合う情報交換の場にもなっています。

月日	内容	参加者数	場所
R7.8.8	海のレクリエーション(マリンスポーツ) ・Wカヌーやバナナボート、メカSUPなどの体験や交流	23名	南淡B&G 海洋センター

■くらす連絡会

障がいの有無や種別にとらわれず、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、話し合いの場や活動の場づくりを当事者の方々とともにすすめました。話し合いの場でも出た意見は、行政や淡路障害者自立支援協議会などの関係機関へつなげ、当事者の声を反映できる地域づくりに取り組みました。今後も自らの思いや意見を発信できる場、関係機関との連携・共有の役割を果たせるよう事業をすすめていきます。

月日	内容	参加者数	場所
R7.11.16	総合防災訓練に参加しよう！	12名	市小学校 グラウンド



【総合防災訓練での各ブース見学】

■家族会（知的・精神・身体・認知症等）

市内で在宅介護している世帯へ、寄附でいただいた紙おむつの譲渡会を行いました。譲渡会にあわせて介護者同士のコミュニケーションができる場を開催し、介護の悩みや心配ごとを話し合い共有できる場を創出することができました。

月日	内容	参加者数	場所
R7.4.18	紙おむつの譲渡 おしゃべり、情報交換	10名	南あわじ市社協 203会議室
R7.7.30	紙おむつの譲渡 おしゃべり、情報交換	8名	南あわじ市社協 203会議室

活動目標⑤「あなたもわたしも自分らしく暮らせるしくみをつくろう」

＜活動の目的・ねらい＞

暮らしや考え方の多様化に伴い、生活課題も複雑化、多様化しています。地域の中で孤立する人がないように相談支援のネットワーク強化だけでなく、支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対して、働きかけができるしくみをつくっていく必要があります。

●みんなの権利が守られる共生のまちづくりをすすめよう 【補助金、受託金】

■日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方が、地域において自立した生活が送れるよう支援を行っています。生活困窮者自立支援事業で受けた相談の中には、金銭管理に不安を感じている方もおり、本事業の利用も検討するなど、相談も視野に入れながら一体的な対応ができるよう支援しています。

《相談件数》

初回相談	4 (3) 件	新規契約者数	2 (3) 名
相談回数	457 (386) 件	利用実人数	26 (27) 名

() 中数字は前年度実績

相談回数が令和6年度より50件以上増えた点については、次の通り分析しています。

一つ目は、詐欺被害を受けた利用者2名への支援です。今後一層、定期的に注意喚起を行い、繰り返し被害に合わないよう対応していきます。

二つ目は、新規契約に至るまで債務整理、住環境の整備など、家族やケースワーカーなどの支援者と連携して対応したケースが多かったことです。

三つ目は、不安感の強い利用者から被害的な内容の連絡が頻繁に入り、都度対応したケースがあったためです。

《対象者別契約者数》 ※令和8年3月末現在

契約者	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	4 件	12 件	10 件	0 件	26 件

《契約者に対する訪問回数》

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延訪問回数
R7年度	71	72	64	67	68	71	82	70	63	63	60	64	815 回

■生活福祉資金貸付制度・法外小口資金貸付事業

生活福祉資金貸付制度は低所得世帯をはじめ、障がいのある方や介護が必要な高齢者などのいる世帯に対して、資金の貸付と民生委員・児童委員が必要な支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲を高めると同時に在宅福祉及び社会参加を促し、世帯が安定した生活を営むことができることを目的として貸付をしています。

相談傾向は変わらず「教育」に関する相談が多いですが、令和7年4月から所得に関係なく高校の授業料が無償、私立も補助金が出るなど、支援制度が更に充実したことにより、申請は専門学校進学 of 1 件にとどまりました。

他には債務の借換えをして生活再建をしたいなどの家計・債務に関する相談が延べ56件の内9件あり、教育資金4件よりも多い傾向にありました。

「つなぎ資金」は8件中5件が生活保護申請時の初回給付の立替え貸付となっています。

資 金 種 類		R7年度	R6年度	貸付（償還）中の件数
教 育 支 援 資 金		1	3	79
福 祉 資 金	生業を営むために必要な資金	0	0	
	技能を習得するために必要な資金	0	0	
	住宅の増改築や改修のために必要な資金	0	0	
	福祉用具を購入するために必要な資金	0	0	
	中国残留邦人の年金追納に必要な資金	0	0	
	療養のために必要な資金	0	0	
	介護・障害福祉サービスに必要な資金	0	0	
	冠婚葬祭に必要な資金	0	0	
	住居の移転等に必要な資金	0	0	
	その他日常生活上一時的に必要な資金	0	0	
	緊急小口資金	1	0	
総 合 支 援 資 金		0	0	30
不 動 産 担 保 型 生 活 資 金		0	0	0
要 保 護 世 帯 向 け 不 動 産 担 保 型 生 活 資 金		0	0	0
特 例 貸 付 コ ロ ナ	緊急小口資金※			66
	総合支援資金 生活支援費※			130

法 外 小 口 資 金	8 (5)	13 (11)	
-------------	-------	---------	--

※（ ）中の数字は、年度内に償還が完了したもの



■障害者虐待防止センター（南あわじ市障害者権利擁護センター）

障がいのある方の権利を守るため、虐待通報などへの対応を行いました。権利侵害されていることに気づいていない方や、言葉で表現することが難しい方など、判断に迷うケースが増えています。正しい対応ができるように、研修会に参加するなどしてスキルアップに努めています。当事者の権利を守る機能を発揮できるように、市の担当者とも検討を重ねていきます。

《相談・通報者》

本人	家族	事業所	警察	医療機関	その他
1	0	3	0	0	2

《内容》

身体的	放棄放任	心理的	性的	経済的	その他
2	0	3	1	0	0

●お互いの存在を知り、出会う機会を大切にしよう 【共同募金配分金】

■人権学習

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	南あわじ市社会教育課と連携し、ふれあい・いきいきサロンでのビデオ学習の支援を行ってきました。また、8月に実施した人権サマーフェスティバルでは、平成看護専門学校ボランティア部と輪投げストライクアウトなどのブースを持ちました。引き続き、社会教育課と連携しながら、人権に関する活動の啓発および学習支援を行います。
---------------------------	---

■当事者活動の支援

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	手をつなぐ育成会、身体障害者福祉協会、中途失聴難聴者の会、あわじユニバーサルスポーツの会等から、社会福祉事業助成金配分金事業の申請を受付けています。各団体が抱えている課題などの解決方法を探りながら、活動を続けていくために必要な支援を検討していきます。
---------------------------	---

●助けたり・助けられたりできる関係を大切にしよう 【共同募金配分金】

■まちの電気屋ネットワーク事業

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	生活困窮者や火災などにより、住宅や家財等を失くした方に、電化製品などを提供することで、自立した生活の再建に向けた支援を行っています。市内10店舗の電気屋が登録しており、使わなくなった電化製品の寄附と年1回の点検を行っています。 社協が、このネットワークのコーディネートを担当しており、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、テレビ、炊飯器、ポット、電子レンジ、ホットプレート、トースター等の12品目を保管しています。 令和7年度は、屋根の崩落による転居世帯1件に4品目を提供し、生活保護および生活困窮者へは5件に2品目5点を提供しました。 【登録電気店】 (有)浜野電機、喜田電気商会、松下電器、辻西電化センター、マスモトでんき、電気のお店くらだ、サカベ電器、双葉電化、矢野ミシン電器商会、高田政浩
---------------------------	--

■架け橋パントリープロジェクト【市民プロジェクト】

フードバンク淡路島、消費者協会、コープこうべ、あわじ島農業協同組合、市担当課等との連携により「食でつなぐ！南あわじの輪！架け橋パントリープロジェクト」をすすめています。市内ではフード・ドライブの取り組みが浸透し、安定的に食材が集まっています。

コロナ5類移行後においても、不安定な経済情勢における物価高やいわゆる令和の米騒動などの影響により、市内での食材に対するニーズは依然として高くなっています。

食材の配布で一時的な支援を行い、相談窓口を開設し、希望者には生活面の相談に応じています。必要な方に情報が届くよう特例資金利用世帯やひとり親世帯へ郵送での案内を継続しています。また住民のニーズを把握するアンケート調査を毎回実施しています

月日	内容・利用者数	場所
R7.6.18	プロジェクト会議の開催 令和6年度の報告、令和7年度の計画 令和8年度以降のプロジェクトのあり方について	南あわじ市社協
R7.8.18	食材の詰込み作業・精米（南あわじ市消費者協会・ボランティア他）	
R7.8.22	第12回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会を開催 ※105世帯の方へ配布 地域の方々に寄附いただいた日用品も配布	

R7.10.24	プロジェクト会議の開催 第12回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会の報告 第13回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会について 令和8年度以降のプロジェクトのあり方について	南あわじ市社協
R7.12.22	食材の詰込み作業・精米（ボランティア他）	
R7.12.23	第13回架け橋パントリープロジェクト食材無料配布会を開催 ※94世帯の方へ配布 地域の方々に寄附いただいた日用品も配布	

■生活困窮者等への食材支援

生活再建のきっかけづくりを目的に生活困窮世帯や生活保護世帯へ必要に応じ、各種団体のフードドライブからの提供や善意銀行へ預託された食材を活用し、14世帯へ合計20回の食材支援を行いました。主な要因は生活保護開始までのつなぎ、家計管理に課題が挙げられます。
※架け橋パントリープロジェクトの食材無料配布とは別の取り組みです。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
提供回数	3	2	2	2	1	0	0	3	3	0	2	2	20
													(17)

() 中数字は前年度のもの

活動目標⑥「困りごとを受け止めてつないでいけるしくみをつくろう」

<活動の目的・ねらい>

個々の生活課題や、各種団体の課題などを話し合える場が少なく、それぞれで課題を抱え込んでしまっている現状があります。地域で起こっていることに目を向け、課題を整理して解決に向けた取り組みができるように、住民相互の話し合いの機会を増やしていきます。

■庁内ネットワーク会議

取り組みの内容 (成果・課題・今後の方向性等)	物価高騰による生活への影響が長期化する中で、各関係機関が実施している制度や支援施策について情報共有しました。お互いにどこにつなげばいいのかを確認し、誰も取り残すことがないように支援体制を整えています。声なき声を拾い上げる取り組みをどのように広げていくか、また相談者に寄り添い続けることができるしくみも検討しています。 【実施回数：1回】
----------------------------	---

●包括的な相談支援ができる体制を考えていこう 【補助金・受託金】

■生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業：市へ職員1名を出向

令和7年度の相談傾向として、相談者の負傷や認知症による認知機能低下などによって、世帯の家計を支える経済力や家計管理能力が低下し、今後の生活への不安感に押しつぶされ、精神的に追い詰められて相談に至るケースが多くありました。また、生活保護世帯や生活困窮世帯関係なく、収支のバランスが崩れ、支払いの優先順位が分からなくなり、ライフラインの支払いを数ヵ月滞納し、食費に回す余裕がなくなり、借入の相談や家計管理、食料支援の相談もありました。

家計支援は、今の生活に合わせた生活設計が必要になるため、相談者が順応していくにあたり息の長い支援が必要です。また、利用できる制度（障害年金請求、障害者手帳、自立支援医療制度、傷病手当金、生活保護制度、確定申告、自己破産手続等）があっても、家族自身も支援が必要で協力を得ることが難しく、相談者自身がどのように着手したらいいか分からず手続き支援を行うケースもあります。

相談者の中には過去に他課に相談しているケースもあり、状況が刻一刻と変化しているため、関係者間で情報共有し事態を深刻化させないことが必要です。自立相談支援機関として、相談来所時に継続的に相談できる窓口としてPRするとともに、各課や関係機関と連携しながら必要な支援につなげていく取り組みを行います。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
相談者数	5	2	5	2	4	4	5	5	3	2	5	4	46 (24)

() 中数字は前年度のもの



《相談者が抱えている問題》※一つのケースで複数の問題を抱えています

1	病気	23
2	障害（手帳有）	7
3	障害（手帳未取得）	6
4	メンタルヘルスの課題	15
5	住まい・ホームレス	10
6	経済的困窮	46
7	（多重・過重）債務	20
8	家計管理の課題	32
9	就職活動・定着困難	15
10	生活習慣の乱れ	7
11	社会的孤立	8
12	家族関係・家族の問題	29
13	介護	11
14	中卒・高校中退	0
15	ひとり親	5
16	DV・虐待	2
17	刑余者	0
18	コミュニケーションが苦手	8
19	本人の能力の課題その他	43
合 計		287

《支援内容》

情報提供・相談のみ	38
他制度・機関につなぐ	8
同意に向けて取り組む	0
プラン策定 ※前年度受付分及び再プランを含む	2
スクリーニング前	0
合 計	48

《地域別相談》

緑	6
西淡	8
三原	15
南淡	17

■基幹相談支援センター【市委託事業】

南あわじ市の超短時間雇用プロジェクトの窓口から相談につながるケースが増えており、就労以外にもニーズや課題がある場合が多くありました。丁寧に聞き取りを行うことで、世帯の中に複数の要支援者がいることが判ることもあるため、意向を確認して支援機関に再度つなぐようにしています。

また、相談支援専門員の後方支援では、サービス担当者会議、学校でのケース会議に同席し、一緒に方向性を確認するようにしています。多機関でのチーム支援を継続していくなかで、支援者で意見交換するとともに「本人中心支援」の視点を大切に、相談支援専門員の「気づき」を促す関わりを心がけました。他、ひきこもりに関する相談や医療機関との連携が必要なケースなどもあり、サポート体制を時間をかけて構築しています。

《相談対応件数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
相談件数	48	12	5	0	1	0	14	3	31	0	0	4	0	0	10	5

《会議への参画》

会議の内容	・ 淡路障害者自立支援協議会 ・ 相談支援事業所部会 ・ 南あわじ市教育と福祉連携推進会議 ・ 兵庫県基幹相談支援センター連絡会議 ・ 三市基幹相談支援センター連絡会 ・ 医療的ケア児等生活支援検討会事務局会議 ・ 医療的ケア児等の生活支援検討会 ・ 兵庫県市町医療的ケア児等コーディネーター連絡会 ・ 南あわじ市医療的ケア児支援検討会 ・ 短期入所事業所相談会 ・ 淡路圏域医療機関ソーシャルワーカー会 ・ ひきこもり・不登校のための連携会議 ・ 南あわじ市手をつなぐ育成会学齢期部会 ・ 特別支援コーディネーターネットワーク会議 ・ 園生活に伴うケース会議 ・ ケース会議
-------	---

《勉強会・研修会の実施と参加》

内容	・ 事例検討会 ・ 南あわじ市相談支援事業所連絡会（情報交換会） ・ 相談支援事業所部会研修（打合せ） ・ 兵庫県相談支援従事者初任者研修（打合せ、演習講師） ・ 兵庫県相談支援ファシリテーター養成研修 ・ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修（打合せ、演習講師） ・ 医療的ケア児等支援者養成研修「支援の基本的枠組み」（講師） ・ 医療的ケア児等生活支援検討会研修（打合せ） ・ 長野県飯田市議会公明党行政視察対応 ・ いちばんぼし きぼうカフェ ・ 淡路圏域における医療的ケア児支援の取り組み（講師）
----	---

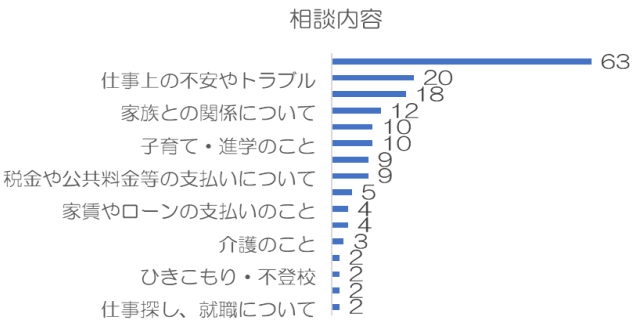
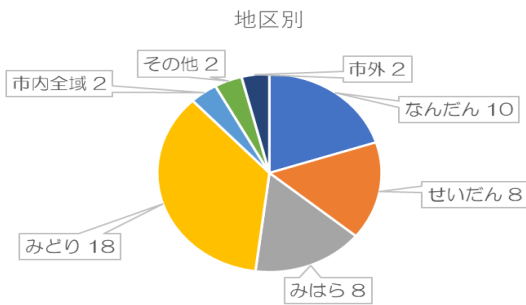
■総合相談

住民の課題に焦点を当てることを目的に、総合相談のみ集計し、全体の傾向を比較しやすいよう、項目についても生活困窮者自立支援事業に合わせています。

相談延べ件数173件の内、上位3項目は「収入・生活費」が63件、「健康・障がい」20件、「債務」18件となっています。それぞれの課題は単体ではなく、精神の不調やがん発症により就労継続が不可によって収入減少となり、その影響で債務返済に支障が生じ、低利子に借換することで生活再建は果たしたいとの相談となるなど、関連づいています。ただこれらに対しては借入ではなく、公的支援制度の利用と並行して家計の見直しが重要だと考えます。

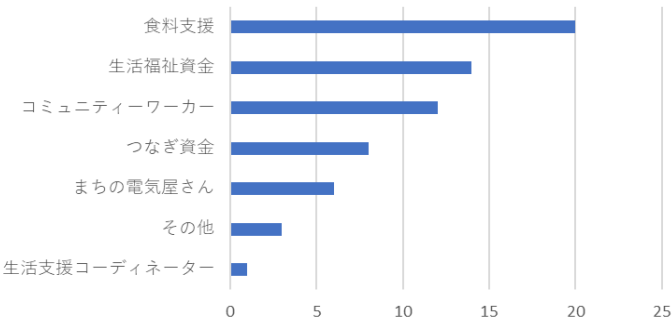
《相談経路》

相談者	本人	家族	知人・友人・近隣	民生委員 児童委員	市役所	病院	相談支援専門員	その他	合計
件数	66	9	4	5	17	2	2	3	108

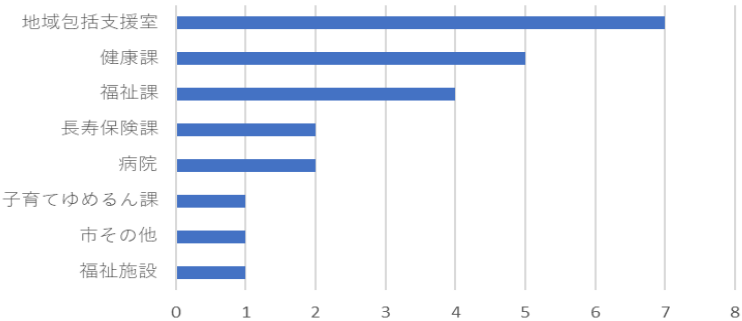


社協による相談の継続・支援	64
他機関等の紹介、引き継ぎ	23
相談のみ	62

社協による相談支援



他機関等への照会・引継ぎ



●困りごとを共有して支え合いを考える場をつくろう

■住民と協議できる地域ケア会議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	旧町単位ごとに毎月1回地域ケア会議に参加し、その地域で抱える高齢者などのケースについて検討しています。支援困難事例などを共有して、関係者のネットワークづくり、個別ケースを通じての地域の課題の把握を行っています。
-----------------------------------	--

●困っている人を見つけたらほっとかない 【会費】

■民生委員・児童委員協議会との協働

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	毎月、定期的で開催される旧町単位ごとの民生委員・児童委員協議会役員会に出席し、顔の見える関係性をつくるとともに、地域の課題や個別の困難事例などを共有・検討しています。つながることで民生委員から相談が多く寄せられ、緊急対応や福祉サービスへのつながりなど連携がスムーズに行われるようになりました。今後は全地域で同じような参画ができるよう調整していきます。
-----------------------------------	--

■社会福祉法人連絡協議会：ほっとかへんネット

「誰もほっとかへん」孤立する人がないまちづくりをすすめるため、市内11の社会福祉法人が地域課題の解決に向けた検討を行っています。社会福祉法人の強みを生かした支援体制を構築できるように活動を続けています。

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	・実務担当者会の開催 ・推進会議の開催 ・ほっとねっとアプリの開発 ・架け橋パントリープロジェクトへの協力 ・ほっとねっと食堂の実施 ・課題対応型プロジェクト（移動支援）への取り組み ・視察研修の受入れ ・武庫川女子大学社会福祉士実習受入 など 移動支援プロジェクトでは、三原志知地区の集いの場への移動支援を行いました。今後も地域のニーズに応じた活動を展開していきます。
-----------------------------------	---



【ひょうごほっとかナイト認定】

これまでの実績が認められ、「ほっとかへんネット南あわじ」が「ひょうご ほっとかナイト」の認定を受けました。

本制度は、「誰も取り残されない地域共生社会」の実現に向け、一定の要件を満たす取り組みを認定するもので、令和7年度より兵庫県知事、兵庫県社会福祉協議会会長、兵庫県社会福祉法人経営者協議会会長の三者により実施されています。



活動目標⑦「生活を支えるサービスを充実させよう」

＜活動の目的・ねらい＞

８０５０問題やひきこもり、生活困窮などこれまで以上にさまざまな生きづらさを抱えた人や福祉課題を抱える家庭が増えています。介護や支援が必要な人に必要なサービスが届くよう、また、制度だけでなくニーズに応じた生活支援サービスの開発に取り組みます。

●介護や支援が必要な人に必要なサービスが提供できる体制づくりをしよう 【自主財源・受託金】

■居宅介護支援事業所

利用者が３％減少に伴い、介護報酬は約２.１％の減収でした。医療的ケアを受けながら在宅療養する方や、ターミナルケアの相談が多く、看取りや急変による解約数が多い傾向にありました。解約件数と比較して、新規件数が伸びなかったことが減収の原因と考えられます。

内部研修では、令和６年度に引き続き相談支援事業所と合同研修を実施し、障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する際の支援において留意することや、それぞれの制度の特色について理解を深めました。本人を取り巻く環境や、家族も課題を抱えているケースが増えてきており、他の制度との連携など多様な対応が求められます。

《ケアプラン作成件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用者数	147	144	145	149	149	147	148	145	142	141	145	146	1,748 (1,801)	97%
要介護度別利用者内訳	支援1	30	29	30	29	29	29	30	30	28	30	30	354 (332)	106.6%
	支援2	33	31	30	31	31	29	30	30	28	29	29	360 (470)	76.5%
	1	36	36	37	39	39	39	35	33	32	31	33	423 (382)	110.7%
	2	25	24	26	27	29	30	34	30	29	26	25	330 (310)	106.4%
	3	12	12	12	13	11	11	11	13	14	14	15	154 (161)	95.6%
	4	7	8	7	7	8	7	6	6	7	7	9	88 (128)	68.7%
	5	4	4	3	3	2	2	2	3	4	4	4	39 (18)	21.6%

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《新規契約件数》

（主な内訳）電話：３件、地域包括：６件、利用者の家族：６件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
総合事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (1)
介護予防	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4 (9)
介護	0	0	4	5	6	2	1	0	0	1	4	1	24 (23)
計	0	1	4	5	8	2	2	0	0	1	4	1	28 (33)

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《解約件数》

(主な内訳) 死亡：12件、施設入所：4件、長期入院：6件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
総合事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)
介護予防	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 (2)
介護	2	2	0	3	3	1	1	0	2	1	2	4	21 (9)
計	2	2	0	3	3	2	1	0	2	1	2	4	22 (13)

※合計欄下段 () 中の数字は、前年度のもの

《介護支援専門員1名あたり取扱い件数》

{要介護利用者数+ (介護予防利用者数×1/3)} ÷ 職員数 (常勤換算)

※総合事業のみ利用の利用者は含めない

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
件数	32.25	32.03	32.58	34.06	34.29	33.87	33.44	32.80	32.26	31.72	33.33	33.33	32.99 (32.88) 件
職員数 (常勤換算)	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1 (3.1) 名

※平均欄下段 () 中の数字は、前年度のもの

《認定調査受託件数》

(内訳) 南あわじ市：12件、明石市1件、京都市1件、那智勝浦町1件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
調査数	0	4	0	1	1	0	0	0	1	3	3	2	15 (2)

※合計欄下段 () 中の数字は、前年度のもの

■訪問介護事業所

介護保険の介護報酬による収入は15%減、障害福祉サービスの介護報酬による収入は3.7%減でした。

介護保険では、訪問全体の身体介護の占める割合や、新規・終了の件数は令和6年度と比較してもほぼ変わらないのですが、実利用者数の減少が減収の要因にあります。令和7年度は在宅で看取りを希望する方の依頼が4件ありました。地域包括ケアシステムの推進により家で看取る選択が増えているなか、安心して終末期支援を任せられる事業所と認識されるよう、組織体制の強化に努めていくことが求められます。

障害福祉サービスでは、実利用者数は増加傾向ですが、頻回に身体介護を利用していた方の入院・終了が収入に影響がありました。

南あわじ市から受託している地域生活支援事業の移動支援では、同行援護の資源不足により、外出支援の代替として新たに「視覚(特例)」という区分が設けられました。同行援護と同じように支援することは難しい面がありますが、利用者の生活の質が維持できる資源の一つとして支援できるよう、視覚障がい理解の研修や基本的な誘導技術の習得など、移動支援の質の向上に努めていきます。

◎定例会内で実施した研修

月	内容	月	内容
4月	接遇研修（セルフチェック）	6月	フィジカルアセスメント
5月	食中毒予防について	10月	AED訓練
	訪問介護のコミュニケーション	1月	認知症ケア研修

◎外部研修

職種	内容	月
管理者	兵庫県ホームヘルプ事業者協議会 管理者研修	7
管理者	淡路圏域障害福祉サービス従事者等研修	7
サービス提供責任者	淡路障害者自立支援協議会 基礎研修会	5
管理者	地域づくりのために介護支援専門員ができることを考える～生活支援コーディネーターとの協働について～	9
サービス提供責任者	兵庫県サービス提供責任者研修（全6回）	9～12
管理者・サービス提供責任者	兵庫県ホームヘルプ事業者協議会サービス提供責任者研修	11
サービス提供責任者	福祉職のための手話講座（全3回）	12～1
サービス提供責任者・訪問介護員	障害者虐待対応力向上研修（4名受講）	12～3

○介護保険サービス

《要支援・要介護度別利用状況》前年度比87.6%

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	9	9	9	9	8	8	8	7	7	8	6	7	95 (54)
要支援2	18	17	17	17	17	18	16	18	18	17	17	18	208 (126)
要介護1	14	15	15	14	13	14	15	16	16	14	15	14	175 (63)
要介護2	6	6	6	7	9	9	7	7	7	8	7	9	88 (35)
要介護3	3	3	3	4	4	4	4	2	1	0	0	0	28 (53)
要介護4	3	2	2	3	4	3	3	3	3	3	5	4	38 (48)
要介護5	2	2	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	9 (9)
計	55	54	53	55	55	56	54	54	53	50	50	52	641
令和6年度	69	70	65	65	61	58	60	59	60	54	56	54	731

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《訪問回数》前年度比84.7%

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和7年度	489	496	510	551	509	532	530	490	486	450	425	474	5,942
令和6年度	671	708	598	639	638	604	574	565	573	504	457	479	7,010

《新規利用状況》

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	1									1			2 (0)
要支援2							1		2				3 (3)
要介護1	1			1	1	1		1		2	1	1	9 (4)
要介護2	1				1	1						1	4 (1)
要介護3													0 (3)
要介護4				1	1		1		1		2		6 (0)
要介護5													0 (0)
計	3	0	0	2	3	2	2	1	3	3	3	2	24
令和6年度	5	3	0	2	0	1	3	3	0	0	4	3	24

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《利用終了状況》

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
要介護	2	1	0	3	1	3	1	5	1	4	3	3	27
計	2	2	0	3	1	3	1	5	1	5	4	3	30
令和6年度	1	3	5	3	3	1	1	2	2	6	4	0	31

《解約理由》

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡	1			2		2		2		4	1	1	13
特養入所													0
老健入所							1				1		2
グループホーム入所						1							1
入院	1			1				3		1	1	2	9
ロングショート利用		1									1		2
その他		1			1				1				3

《入院状況》

入院実人数19名：うち骨折4名、持病4名、肺炎5名、発病2名、尿路感染症1名

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	区分													
令和7年度	要支援	0	1	2	1	0	0	1	2	2	3	2	0	14
	要介護	6	5	4	4	4	3	5	5	6	5	4	2	53
令和6年度	要支援	1	1	0	0	1	3	3	2	2	2	2	0	17
	要介護	3	6	5	4	1	1	5	4	5	2	3	6	45

《地域別契約状況》（令和8年3月31日現在）

緑	6	件
西淡	11	件
三原	21	件
南淡	13	件
合計	51	件

※3月途中で解約1名あり

《居宅介護支援事業所別 依頼状況》（令和8年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	23	件	E（三原）	9	件
A（緑）	5	件	F（三原）	5	件
B（緑）	2	件	H（西淡）	2	件
C（三原）	1	件	J（洲本）	1	件
D（三原）	1	件	南あわじ市地域包括支援センター	2	件
合計				51	件

○障害福祉サービス

《障害支援区分別利用状況》前年度比93.3%。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
区分													
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	8	8	7	8	9	9	9	9	10	10	10	9	106
区分3	7	7	8	7	7	7	7	8	8	8	8	8	90
区分4	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	34
区分5	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	34
区分6	5	6	6	5	5	6	5	4	5	4	4	5	60
計	25	26	26	25	27	28	27	27	29	28	28	28	324
令和6年度	34	35	33	32	29	29	28	28	26	24	25	24	347

《訪問回数》前年度比96.2%。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
年度													
令和7年度	468	459	458	472	464	486	465	420	449	422	436	496	5,495
令和6年度	542	535	413	533	478	503	501	420	443	427	426	491	5,712

《契約・休止・入院・終了状況》

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5
休止	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
再開	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入院	0	1	3	3	3	2	3	3	1	0	0	1	20
終了	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

《地域別契約状況》（令和8年3月31日現在）

緑	0	件
西淡	2	件
三原	13	件
南淡	14	件
合計	29	件

※入院中1名含む

《相談支援事業所別 依頼状況》（令和8年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	23	件
A（三原）	3	件
B（洲本）	1	件
C（洲本）	1	件
C（洲本）	1	件
合計	29	件

○居宅生活支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用者数	4	3	7	3	4	4	3	1	3	2	2	2	38 (16)	237.5%
移動支援 延人数	11	4	12	3	6	5	3	1	5	2	2	4	58 (33)	175.7%
通所・通学 支援 延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)	—

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

■相談支援事業所【委託相談】

障がいのある方やそのご家族様の日常生活に関するさまざまな問題に対して相談支援を行っています。相談傾向をみると、「福祉サービスの利用等に関する支援」が依然として多く、相談の窓口として、まず委託相談につながり、相談を受けるうちに、サービス利用に結び付いたり、再びサービスを利用したいという相談が多くありました。同じ方から、一日に複数回電話がかかることもあり、その都度不安に寄り添った支援に努めています。また、「保育・教育に関する支援」は依然と多い傾向にあり、就園や就学を見据えて、保護者のみならず、関係機関から相談に至るケースも多くありました。

また、これまで支援機関に繋がらなかった方からの相談も多く、基幹相談支援センターと協力しながら、切れ目のない支援が提供できるよう努めました。

《過去2年間の相談者数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
令和7年度	79	101	7	1	0	1	18	29	44	3	18	33	1	0	1	37
令和6年度	134	80	23	4	0	5	19	11	66	0	24	20	3	0	4	45

福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に参加する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計
132	69	42	93	122	67	42	23	42	13	3	21	669
225	106	97	131	104	84	34	20	77	13	0	26	917

※下段数字は、前年度のもの

■相談支援事業所【計画相談支援・障害児相談支援】

《計画相談》

障害福祉サービスの利用を希望している方を対象に、相談支援を行っています。利用者によってモニタリング期間が異なっているため、月ごとの件数にばらつきがあります。サービスを希望するものの、利用に至らなかったり、続けられなかったりすることもあるため、サービスにつなげるだけでなく、個性性を重視したケアマネジメントが求められます。

令和7年度中に、2名の職員が相談支援専門員初任者研修を受講できたことで、事業所の体制が整いました。今後も本人を中心とした支援がより一層求められています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	令和7年度	68	68	58	77	85	73	73	66	65	71	73	66	843
	令和6年度	66	68	56	59	60	51	68	56	59	63	51	62	719

《児童相談》

発達に心配のあるお子さんの相談支援を行っています。手帳を持っていない未診断のお子さんのケースや、親子ともに支援が必要なケースがあります。相談支援専門員の急な変更と、ライフステージの変わり目とが重なり、ご心配をおかけした方もいたため、より一層丁寧な支援に努めました。

就園や就学についての相談のみならず、学級選択の相談も多くありました。また、学校生活や園生活がうまくいかないといった相談も多くありました。お子さんや保護者の気持ちに寄り添い、ライフステージに応じた支援機関につなぎ、連携をとりながら支援をすすめています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	令和7年度	43	45	44	37	26	35	43	33	27	31	33	49	446
	令和6年度	42	40	44	45	43	41	45	39	34	25	21	50	469

《地域移行支援》【事業収入(地域移行支援サービス費)】

入所施設に入所している障がい者、又は精神科病院に入院している精神障がい者について、住居の確保その他、地域における生活に移行するための活動に関する相談、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援などを行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

《地域定着支援》【事業収入(地域定着支援サービス費)】

居宅で単身で生活する障がい者が対象で、24時間365日住み慣れた地域で生活できるように、日常生活全般を支援を行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

■なでしこデイサービスセンター【生活介護】

稼働率は5.5%低下し、介護報酬は6.5%減収でした。空き情報を利用者に周知して利用促進を図ったり、3年ぶりに新規利用者の受け入れをするなど、安定的な運営ができるよう取り組みましたが、「ふらっとほむ」に延べ269人が利用移行したことが収入減少の要因となっています。

全島一斉清掃に係る公民館の清掃活動に参加し、利用者が支援を受けるだけでなく、自分たちができることをし、他者から感謝される機会を持つことができました。また、「ふらっとほむ」と合同で運動会や家族会を開催しました。今後も利用者や職員の交流を図り、それぞれの事業所の良さを活かしながら、相互で協力し、事業運営を進めていきます。

初めての防犯訓練では、駐在所の警察官に防犯対策に必要なことをお伺いしました。災害時におけるBCP（事業継続計画）や感染症発生時におけるBCPに基づいた対応も含め、事前にしっかり対策を講じることで、利用者が安心して過ごせる居場所にしていきます。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	神戸市	合計	新規	1
男性	5	6	1	12	中止	0
女性	5	6	0	11	終了	3

《障害支援区分の状況》

区分 利用者数	区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均支援区分
男性	0	2	1	9	12	5.6
女性	0	2	2	7	11	5.5

《月別利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所した日数	21	21	21	22	18	21	23	19	20	20	20	21	247 (248)
実人数	21	22	22	22	21	22	20	20	19	20	21	20	20.83 (20.83)
延べ利用者数	192	203	203	210	158	179	176	143	147	143	151	154	2,059 (2,205)
令和7年度 稼働率（%）	91.4	96.7	96.7	95.5	87.8	85.2	76.5	75.3	73.5	71.5	75.5	73.3	83.4
令和6年度 稼働率（%）	96.7	91.4	89.0	90.5	87.4	94.0	91.3	88.6	90.0	75.5	80.5	91.0	88.9

※合計欄下段（ ）中の数字は前年度のもの

《曜日別利用登録数》 1日定員10名

曜日 年度	月	火	水	木	金
令和7年度	11	12	11	10	11
令和6年度	11	11	11	10	11

《レクリエーション・行事》

「自分で好きな素材を選ぶ」など、工作の過程で自己決定支援ができるよう取り組んでおり、個性豊かな作品が生まれています。

月	内 容	月	内 容
4月	遠足（イングランドの丘）	10月	運動会
5月	工作（母の日ブーケ作り）	11月	おやつ作り （なでしこ菜園スイートポテト）
6月	野菜植え	12月	クリスマス会
7月	おやつ作り （なでしこ菜園バイクドポテト）	1月	工作（干支カレンダー作り）
8月	工作（風鈴作り）	2月	おやつ作り（チョコプリン）
9月	外出（ふらっとほうむ）	3月	外出（マクドナルド）・野菜植え



【なでしこ菜園野菜と
おやつ作り】



【おやつ作り（チョコプリン）】



【クリスマス会】

【外出（マクドナルド）】



【運動会】



【干支のカレンダー作り】

■なでしこデイサービスセンター【児童発達支援・放課後等デイサービス】

【全体総括】

稼働率は4.2%低下し、介護報酬は7.3%減収でした。

新型コロナウイルス感染症も含め、様々な感染症が季節を問わず発生しましたが、キャンセル数は令和6年度より42件減（児童発達支援：－24件、放課後等デイサービス：－18件）でした。キャンセル数が減っているにも関わらず、稼働率・収入ともに減っているのは、予約時点での稼働率が97.1%（令和6年度は105.2%）と低かったことに加え、キャンセルにカウントされない利用2日前の中止や、職員の体調不良による中止、利用者の希望に添えず予約が取れなかったケースがあったためです。

「淡路障害者自立支援協議会 サービス管理責任者等部会 児童分野」で、児童に関わる支援者全体のスキルアップを目指し、スーパーバイズが受けられる事例検討会を実施しました。今後も他事業所と連携を図りながら、子どもたちの地域生活を支援できるよう努めます。

また、初めての防犯訓練では、駐在所の警察官に防犯対策に必要なことをお伺いしました。災害時におけるBCP（事業継続計画）や感染症発生時におけるBCPに基づいた対応も含め、事前にしっかり対策を講じることで、利用者が安心して通所できる事業所にしていきます。

【全体課題】

残業時間の削減など、職員の働き方改革を目指して議論を重ね、清掃員を雇用するなどの取り組みもしましたが、残業時間を減らすことができませんでした。引き続き検討を重ねます。

令和9年3月末で、放課後等デイサービスを休止することになりました。児童発達支援の利用者数の伸び悩みもあり、安定した経営が課題です。

☆児童発達支援

【総括】

新規利用者は14名。登録者数は5名減少、延べ利用者数は118名減少、介護報酬は9.8%減収でした。

【課題】

共働き家庭の利用が特定の曜日（土曜日の稼働率は100%）や時間枠へ集中し、特に土曜日は利用調整が必要な状態です。また、送迎付きの小集団療育を実施する事業者、リトミックなどの幼児教室、病院が実施する理学・作業・言語訓練など、保護者の選択肢は増えており、延べ利用者数の減少はそのあたりに原因がありそうです。

他の事業所との差別化を図るとともに、「子どもの発達のために今できることをしておきたい」と考える保護者にとっての選択基準は何なのかを検証し、選ばれる事業所になるためにはどうすればよいのかを検討します。

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男児	17	16	0	33
女児	4	5	0	9

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所した日数	20	19	20	22	19	19	21	19	20	19	17	20	235 (233)
実人数	31	34	35	32	34	35	35	37	39	38	38	38	426 (478)
延べ利用者数	81	87	99	84	81	90	83	81	97	87	87	97	1,054 (1,172)
令和7年度 稼働率(%)	82.4	81.9	90.0	73.5	80.5	87.5	74.5	80.5	88.0	84.5	86.5	86.2	83.2
令和6年度 稼働率(%)	87.1	79.5	84.0	82.9	85.7	84.3	87.3	90.0	91.5	94.5	95.8	91.5	87.4

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
事業所見学	2	0	1	2	2	1	1	1	0	1	0	1	12 (12)
インテーク	3	1	1	0	1	2	1	1	1	0	1	0	12 (15)
保育所等訪問	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	5 (8)
個別支援会議	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5 (4)
個別相談	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (10)
発達検査	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (4)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

☆放課後等デイサービス

【総括】

新規利用者は1名、登録者数は4名減少、延べ利用者数は14名増加、介護報酬は3.1%減収でした。

【課題】

特定の曜日（祭日の稼働率は110%）で、共働きの家庭の希望が集中しています。登録者数は89名で、児童1名につき月1回程度しか利用できない状態は続いています。心理の個別療育を行っている事業所は少ないものの、集団療育を実施している事業所は増えており、個別療育と集団療育の役割分担と連携が課題です。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男児	35	26	1	62
女児	16	11	0	27

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所した日数	17	16	16	19	16	16	18	16	16	16	16	17	199 (204)
実人数	80	79	71	75	74	75	69	71	70	73	79	77	893 (895)
延べ利用者数	92	85	81	85	80	85	81	80	79	82	86	84	1,000 (986)
令和7年度 稼働率 (%)	82.4	81.9	90.0	73.5	80.5	87.5	74.5	80.5	88.0	84.5	86.5	86.2	83.2
令和6年度 稼働率 (%)	87.1	79.5	84.0	82.9	85.7	84.3	87.3	90.0	91.5	94.5	95.8	91.5	87.4

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
事業所見学	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (6)
インテーク	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (5)
学校等訪問	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3 (6)
個別支援会議	0	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	1	7 (8)
個別相談	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3 (11)
発達検査	1	2	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	7 (9)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

■ふらっとほうむ

令和7年9月15日に開所しました。開所前の9月8～12日に実施した見学会には、地域の方や行政、事業所の方など116名の方にお越しいただきました。また、事業所内の地域交流スペースを活用した『地域交流拠点づくり』について、地域の方々と一緒に計3回のワークショップを重ねてきました。地域に開かれた『みんなの居場所』となるよう、これからも地域のみなさんと共に考えていきます。

生活介護事業については、開所前に淡路障害者自立支援協議会 相談支援事業所部会にて、事業所の説明を行い、その後も個別に事業所を訪問し、営業活動を行ってきました。利用者数増加を図るため、今後も継続して営業するとともに、SNSやふらっとほうむだよりの発信、淡路特別支援学校での事業所説明会へ行くなど、「利用したい」と選ばれる事業所となるよう努めていきます。

これまで長年どこにも通所できず自宅で過ごしていた方が、ふらっとほうむの見学をきっかけに通所できるようになったというケースがありました。また、少なかった選択肢が広がったことで、自身が利用したい事業所を選べるようになったというケースもありました。本人の希望・選択を尊重し、「できること」「やりたいこと」と中心とした支援、利用者の生活に意味のある活動、地域の方との交流など、ふらっとほうむ独自の支援をすすめていきます。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	合計
男性	3	2	5
女性	5	6	11

《障害支援区分の状況》

区分 利用者数	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均支援区分
男性	0	0	2	0	3	5	5.2
女性	1	0	2	3	5	11	5.0

《月別利用状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所した日数						11	23	19	20	20	20	21	134
実人数						5	10	10	13	13	13	16	11.43
延べ利用者数						15	49	46	54	61	73	100	398
令和7年度稼働率(%)						6.8	10.7	12.1	13.5	15.3	18.3	23.8	14.9

《曜日別利用登録数》 1日定員20名

年度 \ 曜日	月	火	水	木	金
令和7年度	8	7	2	3	4

●地域で生活を支えるしくみをつくろう

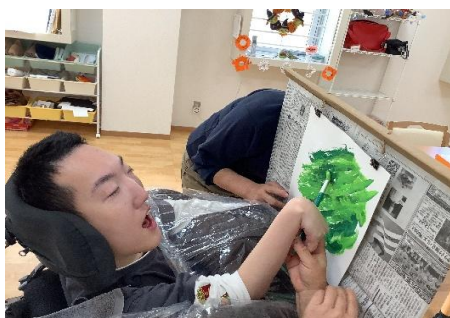
■オール社協議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域住民の相談や課題を組織内で検討する全職種参加の事例検討を、月1回、みどり・なんたん、みはら・せいだんのエリア別で実施しました。今後も組織内で連携し、地域生活支援と地域支援を一体的にすすめていけるよう継続していきます。
---------------------------	--

【卓球バレー】



【作品づくり】



【初詣】



【み〜あ&みやくみやく】



【ラジオ体操】



活動目標⑧「災害にも強いつながりづくりをすすめよう」

<活動の目的・ねらい>

突発的な災害が起きると日常生活への住民の不安や福祉課題が表面化し、混乱も生じます。刻一刻と情報も更新されていく中、行政やボランティア、関係団体と協働し、日頃から防災意識を高め、備えや地域での助け合いを啓発し、災害に強い地域を目指します。

●災害時に対応できるしくみをつくろう 【補助金】

■防災訓練への参画

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	南あわじ市総合防災訓練に社協、社会福祉法人連絡協議会、ひのきしん隊が運営スタッフとして参加し、災害ボランティアセンター設置と運営訓練を行いました。南海トラフ地震が発生した災害想定のもと、各グループに分かれブースでの掲示、記録、近隣へのニーズ調査を行い、ニーズ票をもとに今後の対応を全体で共有しました。災害後のニーズに沿って、ボランティアとのマッチングまでの訓練が必要であるとの意見も多く聞かれ、防災意識向上にもつながりました。
-------------------------------	---

●防災について考える機会をつくろう 【会費】

■防災研修会の実施

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	みどり支部運営委員会では、倭文小学校と協働し倭文地域住民を対象とした地域防災訓練を実施し、児童や地域住民ら計85人が参加しました。 訓練では、6年生はいずみ会倭文支部の協力を得て炊き出し訓練、5年生はボランティアグループ「ふれあいながた」とともに、バッククッキングに取り組み、1～4年生は、自治会や民生委員ら地域住民の協力のもと、視覚障がい者の避難訓練を実施。アイマスクを着用し、当事者の助言を受けながら、公園から学校までの避難経路を実際に歩きました。参加者からは、「子どもたちがすごく頼りになった」「繰り返し訓練を実施していきたい」との声もあり、今後はより多くの地域で要援護者への配慮などを盛り込んだ訓練を実施していけるよう働きかけていきます。
-------------------------------	--

■防災意識の啓発

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	倭文永田邸で開催された防災ウィークで、地域の方とバッククッキングの調理を行いました。災害が起きた場合を想定し、避難場所や準備も住民同士で話し合いました。災害時の避難経路、準備物、近隣への声掛けなど住民同士で話し合うきっかけにもなりました。地震のほか水害や道路の寸断を想定した防災訓練についても今後の課題にあがりました。
-------------------------------	---



【倭文地域での防災訓練】

●「支え合い（防災）マップ」づくりに取り組もう 【会費】

■支え合い（防災）マップづくり

取り組み内容 (成果・課題・今 後の方向性等)	平成29年から支え合いマップづくりを推進しています。マップづくりを通じて、普段話す機会の少ない支え合いや防災について話し合い、防災意識を向上させるきっかけとなるように働きかけました。 令和7年度は、伊加利地区及び湊地区でマップづくりを実施しました。伊加利地区では、ご近所推進（見守り）委員会の研修として2年おきにマップづくりが実施できています。また、湊地区では令和6年度から地域づくり協議会内で話し合いをすすめ、令和7年度に湊・里地区でマップづくりを行うことができました。 今後も、行政と連携し、住民へ意識啓発を行っていくツールとして支え合い（防災）マップづくりを推進していきます。また、支え合いマップを作成した後の振り返り、話し合いの場についても、協議を行いながらすすめていきます。
--	---

活動目標⑨「新しい活動を生み出そう」

<活動の目的・ねらい>

生活スタイルの変化や新型コロナウイルスの出現により、人とのつながりや活動の形が大きく変わりました。今あるつながりを切らないように、そして地域の現状や課題を把握しながら、これまでとは違う新しい形での、つながり、支え合いづくりをすすめていきます。

●新しい活動を生み出す話し合いの場をすすめよう 【会費】

■地域福祉推進計画の推進と評価

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	第5次地域福祉推進計画の策定に向けて、1月13日（火）に第1回策定委員会を地域福祉計画策定委員会と合同で開催しました。当日は、正副委員長の選任、策定スケジュールなどの確認を行い、第5次計画策定に向けて動き始めています。あわせて、第4次地域福祉推進計画の振り返りを内部で実施しました。これまでの活動を振り返りを行いながら、計画の評価を行いました。
---------------------------	--

■包括的支援体制に向けた取り組み

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域包括支援室、市民協働課と情報共有しながら、地域に向けた働きかけを行いました。令和7年度は、支部運営委員会において、より福祉的な話し合いをすすめるため、令和8年度よりスタートする「地域福祉推進ネットワーク会議」への移行について協議を重ねました。また、旧町エリア、市民交流センター単位で「つながり座談会」を開催し、地域の課題について話し合える場づくりをすすめました。今後もまちづくりと一体的にすすめていけるように、エリア設定や会議の連動性を意識した活動に取り組んでいきます。孤立する人がない地域づくりを実現するために、これからも検討を重ねていきます。
---------------------------	---

■つながりワーカー養成講座

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「地域でちょっと気になる人」に気づき、「さりげなく」支えていくために、地域やご近所の見守り・支え合い活動を推進することを目的に、中央共同募金会の「つながりワーカー養成研修・講座」を活用し、市内4カ所で「つながりワーカー養成講座」を実施しました。
---------------------------	--

月日	開催場所	参加者数	参加者内訳
R7.9.29	北阿万地区公民館	10名	自治会長、民生委員、民生協力員、ボランティアなど
R8.2.21	倭文公民館	11名	民生委員、ボランティア、地域住民など
R8.3.2	八木地区公民館	11名	ボランティア、医療関係者、地域住民など
R8.3.11	湊地区公民館	8名	ボランティア、医療関係者、地域住民など

■つながり座談会

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「つながりワーカー養成講座」の受講者を対象に、日常生活の中で気になる方や、見守り活動上での課題、これから自身で取り組めることを気軽に話し合える場として、市民交流センターごとなど身近な地域で定期的に「つながり座談会」を開催しています。
-----------------------------------	---

□広田

月日	主に話した内容	参加者数
R7.5.30	・外国籍の方への声掛けが難しいので、顔を合わせる機会があればよい。 ・コロナ以降、施設へ慰問する機会が減った。	5名
R7.7.30	・緑風館で働くインドネシアの技能実習生2名を招き、普段の暮らしや参加してみたいことなどを伺う。	8名
R7.9.24	・前回の振り返りより、外国籍の方との関係性が大事との意見があり、施設への慰問や、福祉のつどいへ招待するなどの意見があった。	6名
R7.12.10	・耳の聞こえづらい方とのコミュニケーションや災害時の避難方法、普段の困りごとなどを聞いてみたいとの意見があった。	5名
R8.3.13	・子どもに話しかけることが少なくなった。 ・若い世代、子どもたちの思いを聞いてみたい。 ・喫茶店が閉店し、男性が集まれる場所が減った。	5名

□倭文

月日	主に話した内容	参加者数
R7.5.26	・障がいのある世帯が、普段は母娘で外出していたが、最近は娘が一人で歩いていることが多くて心配。	2名
R7.7.28	・普段気にかけていた近所の方が団地に引っ越したため、最近の様子がわからなくなった。	4名
R7.9.30	・団地や集合住宅に住んでいる方の情報が入ってこない。 ・イノシシやシカによる畑の被害が広がっている。	3名
R7.12.8	・中学校跡地の利活用についてのワークショップの内容。 ・団地の入居者が減ってきており空き部屋が増えている。	4名
R8.3.10	・小学校の入学者数がさらに減少している。 ・子どもたちが参加できる少女バレー、野球クラブがなくなり、子どもたちと顔を合わす機会が少なくなった。	4名

□せいだん

月日	主に話した内容	参加者数
R7.5.16	・つどいの場について ・気になる地域の方に関わるうえで難しいこと ・晴海ヶ丘の状況について	6名
R7.7.25	・地区の防災活動について ・地区の行事について ・空き家問題、独居高齢者の課題について	5名
R7.10.3	・地区の伝統文化の継承について ・地域の行事について ・地区の集い場について	5名
R7.12.22	・健康に関することについて ・防災・災害に関することについて	6名

□みはら

月日	主に話した内容	参加者数
R7.5.9	・つながりワーカー養成講座を受講して ・地域で意識するようになったこと ・地域の課題について	9名
R7.7.10	・隣近所の気になる方へのアプローチについて ・昔あった地域の人がつながる場について ・各地区のイベントについて	7名
R7.9.11	・各地区のイベントについて ・地域の困りごと、気になることについて ・他地区の課題について	5名
R7.12.4	・各地区のイベントについて ・地域の困りごと、気になることについて ・他地区の課題について	5名



【ふらっとほうむで実施した座談会】

□福良

月日	主に話した内容	参加者数
R7.4.23	・地域の子どもたちの実数や生活実態について ・結婚して福良に来たばかりの方が道で困っていたところに声をかけた事例	14名
R7.6.25	・子ども食堂をする場所について ・漁業が衰退しており若者が働く場所が少なくなっている。	14名
R7.8.28	・子どもを対象としたいすみ会の活動について ・移住者が増えてきており活躍している方もいるが、困っていることはないのか？	11名
R7.10.23	・福良地域に移住されたご夫婦から「地域の方と一緒に交流会をしたい」「移住者が集う喫茶店がある」などの話があった。	15名
R8.1.9	・移住された方から「地域の寄合場へ地元の方に参加してもらい、壁塗りなどをしてもらった」と話があった。 ・参加者から「地元同士では気付かない異変に移住された方は気付いてくれる」などの話があった。	13名
R8.3.24	・銀行員より「見守り協定を結んでいるが、訪問先の情報を提供することがコンプライアンス上難しく、どうしたら良いか悩むことが多い」と話があった。	10名

□賀集

月日	主に話した内容	参加者数
R7.5.27	・地域内で誰もが気軽に集まれる場所について ・子どもたちと高齢者が交流する場づくりについて ・子育て世代の仲間づくりの場について	9名
R7.7.31	・子どもたちとの交流の場について ・元教師など地域の人財について ・子どもたちの困りごとや遊び方などを直接聞いてみたい	10名
R7.10.21	・賀集小学校6年生5名を交え、「シャベリカ」を使って「尊敬する人」「地域の自慢」などのテーマについて話し合う。	11名
R8.1.21	・地域の子どもたちと活動をしたい。 ・空き家を活用した民泊が増えたため、ご近所トラブルにならないか不安。 ・夏休みの公民館講座で世代間交流を実施してはどうか。	12名
R8.3.26	・「田中会館周辺に子どもが増えた」 ・竹細工、しめ縄づくり、パッチワークなど、地域の〇〇名人の発掘。	13名

□北阿万

月日	主に話した内容	参加者数
R8.1.29	・民生委員はひとり暮らし高齢者を訪問するため状況の確認ができるが、引きこもりがちな方や高齢者世帯など対象ではない方の見守り活動が難しい。隣近所の方との連携を地域全体で取り組めるようにならないか。	8名



【小学生を交えての座談会】



【福良地区でのつながり座談会】

●さまざまな人・団体との新しいつながりを広げよう

■福祉分野以外とのネットワーク強化

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「高齢者の暮らしを支える意見交換会」に参加し、「移動・つながり・健康」をめぐる多様な地域課題について、企業・店舗・団体のみなさんと意見交換を行いました。今回の機会を通じて、企業・団体同士のつながりが生まれ、高齢者の暮らしを支える新たな取り組みにつなげていきたいと考えます。
---------------------------	--

■移住してきた方との地域での交流の場の検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	福良の「つながり座談会」に福良へ移住してきたご夫婦に参加していただき、移住してきたエピソードや今後の活動について話していただきました。 また、地域福祉フォーラムにおいて、阿万吹上町の取り組みについて登壇した移住者の田畑氏から、地域に新しい風が吹き込み、交ざりあうことで、地域がより活性化していくプロセスを話していただきました。
---------------------------	--

●地域の資源や情報を見える形で整理しよう

■地域の活動の場パンフレットの作成

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「地域のみまもりハンドブック」を再発行しました。見守りのヒントや効果などを掲載し、見守り活動について再認識できる内容となりました。今後、地域活動のなかで活用していきます。
---------------------------	---

◎「活動をすすめるための組織基盤づくり」

南あわじ市の地域福祉をすすめるため、計画的に職員を採用し配置するとともに、必要な専門性を身につけられる機会をつくります。また、役職員がともに福祉目標の実現に向けてすすめるよう、理事監事会、評議員会の活性化を図ります。

●職員の人材確保と育成をすすめます

■人員配置の検証に基づく職員採用

《職員採用状況》

採用年月日	部 署	職 名	氏 名	雇用形態	備 考
R7.5.1	地域生活支援部	相談支援員	奥野佑美	常勤	
R7.5.7	在宅福祉サービス部	生活支援員	市坪二郎	非常勤	
R7.5.7	在宅福祉サービス部	清掃員	南正子	非常勤	R7.9退職
R7.9.23	在宅福祉サービス部	清掃員	新地幼子	非常勤	
R7.10.1	在宅福祉サービス部	訪問介護員	原口和己	常勤	
R7.10.1	在宅福祉サービス部	生活支援員	清水由香	常勤	
R8.3.10	在宅福祉サービス部	訪問介護員	濱中陽子	常勤	

■研修計画に基づく研修の実施

研修班を中心に年間計画を立て、内部研修を企画・実施しています。部署を超えてともに考えたり共有したりする機会を持つことで、職員のスキルや法人内の質の向上を図っています。

外部から届く研修の案内は全職員に周知し、上席から研修受講を指示する以外にも、自ら学びたいという意思を尊重するようにしています。「研修受講準備＆報告書」のシートを用いて研修受講前には目標を事前に記入し、研修後に学んだこと・事前目標の評価・今後職務に活かせる点について記入、提出し、上席がコメントを記入して返しています。また、内部で伝達研修を行い、内部研修で受講したことを活かしています。

《内部研修》 ※講師無記名は、職員もしくは各委員会・ワーキングメンバーが講師担当

月日	研修テーマ	出席者数
R7.4.18	安全運転講習 講師：(株)イチネン	45名
R7.5.23	全国校区・小地域福祉活動サミット（伝達研修）	20名
R7.6.24	第4次地域福祉推進計画の評価・見直し	25名
R7.7.18	ハラスメントについて 講師：洲本さかえ法律事務所 永澤氏	37名
R7.8.29	コンプライアンスについて	37名
R7.9.26	BCP研修・訓練（災害）	30名
R7.11.21	BCP研修・訓練（感染症）	37名
R7.12.9	淡路島の社会福祉協議会 視察研修（伝達研修）	12名
R7.12.19	合理的配慮について 講師：淡路圏域コーディネーター 古東氏	39名
R8.2.24	メンタルヘルス研修	36名
R8.3.27	虐待・身体拘束防止研修	39名

《外部研修》

年月日	研修等の名称	参加者	研修実施形態
R7.5.17	WISC-V 解釈 基本的解釈および拡張的解釈	初谷	集合
R7.5.20	障害支援区分認定調査員研修	柳・奥野	オンライン
R7.5.30	令和7年度淡路障害者自立支援協議会 基礎研修会	奥野・奈良	集合
R7.6.6	自立支援協議会こども部会支援者研修	北川・新地・柳・奥野	集合
R7.6.6	安全運転管理者等講習会	長井	集合
R7.6.17	令和7年度精神保健福祉業務従事者等研修会（初任者向け）	田中	オンライン
R7.6.26～27	令和7年度兵庫県高次脳機能障害支援者養成研修（基礎研修）	新地	集合
R7.7.1	令和7年度クローバー ペアレントトレーニング研修	藤本	集合
R7.7.3	令和7年度兵庫県ホームヘルプ事業者協議会管理者研修	森	オンライン
R7.7.10	高齢者虐待対応力向上研修A研修	濱田	オンライン
R7.7.11	令和7年度淡路圏域障害福祉サービス従事者等研修	森・北川・新地・畠中	集合
R7.7.17～18	令和7年度兵庫県高次脳機能障害支援者養成研修（実践研修）	新地	集合
R7.8.7	令和7年度相談支援スキルアップ研修会	中野	集合
R7.8.20～21	令和7年度兵庫県相談支援従事者初任者研修（合同講義）	柳・奥野	オンライン
R7.8.27	令和7年度社協経営セミナー	平見	集合
R7.9.3	県内社協局長勉強会「身寄りのない高齢者等の支援」について	山口・山本・江本・奥井	オンライン
R7.9.4	令和7年度兵庫県介護支援専門員協会研修会	平見・森・松本・他5名	集合
R7.9.5	令和7年度兵庫県相談支援従事者基礎研修	柳	集合
R7.9.9～10	令和7年度兵庫県障害者ピアサポート研修（基礎研修）	田中	集合
R7.9.10	医療的ケア児等支援講演会	新地・柳・奥野	オンデマンド
R7.9.12	令和7年度サービス提供責任者研修（1日目）	奈良	集合
R7.9.16 R7.9.18～19	令和7年度兵庫県主任相談支援専門員養成研修（1～3日目）	新地	集合
R7.9.19	令和7年度淡路圏域自殺対策研修会	柳・奥野	集合
R7.9.24～25	令和7年度兵庫県相談支援従事者初任者研修（3・4日目）	柳	集合
R7.9.30	令和7年度第1回ほっとかへんネット実践交流会	平見	集合
R7.10.1～2	令和7年度兵庫県相談支援従事者初任者研修（3・4日目）	奥野	集合
R7.10.3,7	令和7年度兵庫県主任相談支援専門員養成研修（4・5日目）	新地	集合
R7.10.6 R7.10.29	令和7年度サービス提供責任者研修（2・3日目）	奈良	集合

R7.10.7	令和7年度第1回家計改善支援部会 「WAM事業で開発した家計のリスク点検アプリとテキスト説明会」	江本	オンライン
R7.10.19	南あわじ市医療的ケア児支援者研修会	平見・新地・山口愛	集合
R7.10.21~22	令和7年度淡路島の社会福祉協議会職員協議会 先進地視察研修会（新温泉町）	森・新地・奥本・二瓶・箕浦	集合
R7.10.27	令和7年度認定調査員フォローアップ研修	新地	オンライン
R7.10.28	令和7年度高次脳機能障害支援普及研修	新地・柳・奥野・橋本	オンライン
R7.11.1	2025年度 社会福祉士実習指導者講習会	江本・奥井	オンライン
R7.11.3	令和7年度サービス管理責任者部会「権利擁護・虐待防止研修」	平見・北川・新地・柳・山口愛	オンライン
R7.11.5~6	令和7年度兵庫県障害者ピアサポート研修（専門研修）	田中	集合
R7.11.8~9	第12回生活困窮者自立支援全国研究交流大会	江本	オンライン
R7.11.11	令和7年度兵庫県ホームヘルプ事業者協議会サービス提供責任者研修	森・池田	オンライン
R7.11.13	令和7年度淡路圏域障害福祉サービス従事者等研修	新地・柳・奥野	集合
R7.11.14	令和7年度サービス提供責任者研修（4日目）	奈良	集合
R7.11.26~28	令和7年度兵庫県相談支援従事者初任者研修（3~5日目）	柳	集合
R7.11.26	生活困窮者支援体制強化事業「実践交流・情報交換会」	宮崎・奥井	オンライン
R7.11.27	兵庫県相談支援ファシリテーター養成研修（1日目）	新地	集合
R7.12.1	令和7年度サービス提供責任者研修（5日目）	奈良	集合
R7.12.8	就労支援部会 自立就労委員会	江本	オンライン
R7.12.8~10	令和7年度兵庫県相談支援従事者初任者研修（3~5日目）	奥野	集合
R7.12.13	令和7年度サービス提供責任者研修（6日目）	奈良	集合
R7.12.16	福祉職のための手話講座（基礎）	池田	オンライン
R7.12.22	兵庫県相談支援ファシリテーター養成研修（2日目）	新地	集合
R7.12.16	福祉職のための手話講座（中級）	池田	集合
R8.1.9	兵庫県相談支援ファシリテーター養成研修（3日目）	新地	集合
R8.1.13	福祉職のための手話講座（交流）	池田	集合
R8.1.15	令和7年度アルコール研修会	新地	集合
R8.1.22	令和7年度医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	新地	オンライン
R8.2.5~16	令和7年度障害者虐待対応力向上研修A・B	柳・奥野	オンデマンド
R8.2.9	人手不足の新しい選択肢 超短時間雇用セミナー	江本	集合
R8.2.12	令和7年度兵庫県ホームヘルプ事業者協議会サービス提供責任者研修	森	オンライン
R8.2.12	南あわじ市社会福法人連絡協議会 理事長・管理職向け研修	平見・森	集合

R8.2.16	生活困窮者支援体制強化事業第3回「実践交流・情報交換会」	奥井	集合
R8.2.18	令和7年度 年金制度説明会	富山	集合
R8.2.18	高齢者虐待対応力向上研修C研修	濱田	オンライン
R8.2.20	兵庫県相談支援ファシリテーター養成研修（4日目）	新地	集合
R8.3.17～18	兵庫県相談支援ファシリテーター養成研修（基幹相談支援センター編）	田中	集合
R8.3.19	日常生活自立支援事業 令和7年度 専門員研修会	山本	集合
R7.12～R8.2	令和7年度障害者虐待対応力向上研修A・B	池田・奈良・槇本・原口	オンデマンド
R8.3.3	令和7年度生活支援コーディネーターフォローアップセミナー	二瓶・川口	集合

《内部会議》

研修・会議等の名称	内容	開催頻度等
管理職会議	各部からの報告・感染症対策や法人運営の課題を協議	月1回
オール社協議	個別事例検討	週1回
オール社協議プラス	ふらっとほうむの地域交流スペースを活用した地域交流拠点づくりについて	週1回
ワーカー連携会議	各ワーカーからの報告、協議、確認等	週1回
総合NOW	総合相談係内で相談及び担当事業の共有、検討等	週1回
地域福祉戦略会議	地域担当による地域への働きかけ、アプローチについて	月1回
ケアマネ会議	運営に関すること・ケースの共有、検討・研修	週1回
相談支援専門員会議	多職種参加によるケースの共有と困難事例の検討	週1回
ヘルパー定例会	運営に関すること・ケースの共有、検討・研修等	月1回
なでしこミーティング （児童）	運営に関すること・予約状況の確認・ケース検討等	月2回・年3回（研修）
なでしこミーティング （生活介護）	運営に関すること・ケースの共有、検討・研修等	月1回
ふらっとほうむ ミーティング	運営に関すること・ケースの共有、検討・研修等	月1回

■表彰

受賞者・団体（敬称略）	表彰名・大会等	表彰の内容
土井本 真希 宇藤 明子	兵庫県知事表彰（ヘルパー功労者） 第73回兵庫県社会福祉大会	ホームヘルパー業務に 20年以上従事した者
川口 早代里	兵庫県社協会長表彰（職員の部） 第73回兵庫県社会福祉大会	社協職員として 15年以上従事した者

《兵庫県共同募金会会長感謝》

2年以上におよび功労が顕著であるもの

受賞者・団体	南あわじ市立志知幼稚園
	南あわじ市立八木保育所
	南あわじ市立神代保育所
	南あわじ市立北阿万保育所
	南あわじ市立市阿万保育所

■実習生の受け入れ

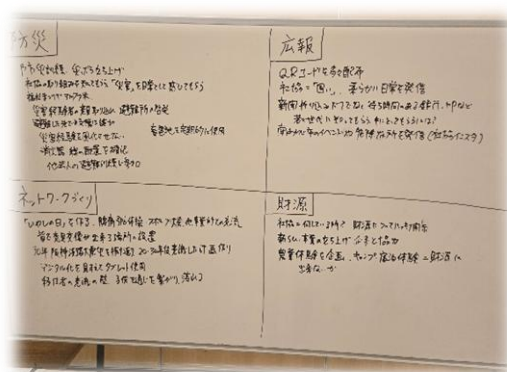
期間	目的	人数	活動内容
R79.24~10.31	社会福祉士 ソーシャルワーク実習	1	社会福祉現場実習
R8.3.16	介護支援専門員 実務研修実習	1	ケアマネジメントプロセスについての 実践場面の見学・学習

■目標シートの活用

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	自分のスキルやモチベーションを高めることを目的に、全職員が年間目標を設定して業務にあたっています。各部署の管理者が目標設定時の個別面接、自己評価・上司評価後のフィードバック面接をしています。 令和7年度は目標シートに加え、接遇・マナーやチームワーク、法人組織の理解など6項目19の内容をチェックする自己評価シートを導入しました。
-------------------------------	--

■メンタルヘルスの取り組み

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	毎年、全職員対象にストレスチェックを実施しフィードバックしています。セルフチェックを行うことで、自分の心の状態や健康状態をよく理解し、ストレスと上手に付き合う方法を学び、不調を未然に防げるよう取り組んでいます。また、法人内研修においても、メンタルヘルス研修を行い、ストレスとメンタル不調について、物事の考え方を考える認知行動療法について学びました。
-------------------------------	---



【内部研修】

●法人のガバナンス強化（労働環境・法人の価値・収益率）をすすめます

■関連各法を遵守した運営

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	「職業倫理」「コンプライアンス」「プライバシー保護」の関係各法の遵守については毎年1回内部研修を開催し、また、県や市が開催する各サービスの集団指導も受け、健全な法人（事業）運営に努めています。所有する資格・各職種・各事業、それぞれに倫理規定や関係各法の理解、それらを遵守して仕事にあたることの必要性を再確認しています。
-------------------------------	---

■理事会、監事会、評議員会の活性化

《理事監事会》

() 内数字は、監事の出席人数

R7.6.12	【報告事項】 ①令和6年度一般会計収支予算第3次補正について 【審議事項】 ①令和6年度事業報告について ②令和6年度一般会計収支決算について ③監事監査結果について ④定時評議員会の日程及び審議事項について 【協議事項】 ①理事②監事③評議員④評議員選任・解任委員の候補者について	9/14 ※書面同意書 3名含む (2)	南あわじ市社協 203会議室
R7.6.26	【報告】 ①役員選任の結果報告 【審議事項】 ①会長の選定について ②副会長の選定について ③就業規則、育児・介護休暇等に関する規則の改定について ④顧問の選任について	11/14 (3)	南あわじ市社協 203会議室
R7.8.5	【協議事項】 ①育児・介護休業法改正に伴う就業規則の改定について 【グループワーク】 8/19全体研修 「“つながり”からはじまる 地域の“未来”を考える」振り返り	14/12 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R7.9.26	【協議事項】 ①育児・介護休業法改正に伴う就業規則の改定について ②法人の重要な人事について ③経理規程の改訂について 【報告事項】 ①会長交替に伴う各事業所変更届について ②ふらっとほうむについて ③運営規程の変更について 【その他】 ①職員給与の昇給ルール等について	10/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室

R7.12.6	【審議事項】 ①令和7年度上半期事業報告（案）について ②令和7年度上半期一般会計決算報告（案）について ③監事監査結果報告について ④令和7年度第1次補正予算について ⑤なでしこデイサービスセンターの運営について ⑥評議員の日程及び審議事項について 【報告事項】 ①評議員候補者について	11/14 (1)	南あわじ市社協 203会議室
R8.2.4	【審議事項】 ①運営規程の改定について 訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・相談支援 なでしこデイサービスセンター生活介護 なでしこデイサービスセンター 児童発達支援・放課後等デイサービス ふらっとほうむ ②日常生活自立支援事業要綱等の改定について ③評議員選任・解任委員の解任と選任について 【報告事項】 ①第5次地域福祉推進計画の策定について ②職員の異動について	13/14 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R8.3.19	【審議事項】 ①令和7年度第2次補正予算（案）について ②令和8年度事業計画（案）について ③令和8年度一般会計収支予算（案）について ④善意銀行購入補助事業等の要綱の改訂について ⑤評議員会の日程及び審議事項について 【報告事項】 ①職員の異動について ②「ふらっとほうむ」地域交流スペースの 運用開始について	9/14 (1)	南あわじ市社協 203会議室

《監事監査》

月日	内容	場所
R7.5.27	【総評】 地域生活課題が多様化・複雑化する中、限られた人員体制で取り組んだ令和6年度の活動を相当程度評価する。これからの南あわじ市の地域福祉を推進するにあたり、より一層重要な役割を担うことを期待し、次のとおり監事会として意見を述べる。 ●職員から役員に至るまで、活動内容や会計状況についての共通理解を深めるため、事務局会議をはじめ、支部長会議、理事監事会など社協の協議体の特性を生かした会議運営に努めること。他の社会福祉法人と比較して理事数が多い団体でもあるので、例えば「法務局跡改修」の案件などは繰り返し丁寧な説明と合意形成に努めること。 ●地域福祉をすすめるうえで要となる非採算部門の職員人件費の公費補助ルールづくりについては、南あわじ市職員の人件費を基準に協議をすすめること。また、国家公務員の人事院勧告に準拠する給与水準の引き上げ等にも柔軟に対応できるようにルール化構築にも努めること。 ●市内各地区の市民交流センターとの連携を強化することで、必要とする住	南あわじ市社協 203会議室

	民に必要な情報が届けられるものとする。 特に小学校区を対象に開催される住民・当事者向けの学習会や研修会については、住民等が参加したいと思うチラシ作成の工夫や市民交流センターと連携を行い、ひろく地域住民に対する情報の発信と周知に努めること。 ●各世帯に依頼する会費や共同募金については、自治会の理解と協力が不可欠である。自治会長会議などで社協の現状説明を兼ねて会費や共同募金の重要性を年間通じて周知・啓発・依頼すること。 ●福祉介護人材の確保については喫緊の課題である。安定した経営ができる人員体制づくりはもとより良質なサービスを提供できる人材を確保し、定着させるため、育成制度や支援対策について、引き続き行政や関係機関との協議に努めること。	
R7.11.19	【総評】 地域における生活課題が多様化・複雑化する中で、社会福祉協議会が限られた人員体制で取り組んできた諸活動は一定の評価ができるが、これからの南あわじ市の地域福祉を推進するにあたり、より一層重要な役割を担うことを期待し、次のとおり監事会としての意見を述べる。 ●サービス事業の運営については、現状を分析するだけに留まらず、新たな加算を取得する体制整備や、現状の加算を見直し、業務の効率化を図るなど、収益アップに向けた取り組みを進め、目標を達成できるよう努めること。 ●文書などデータ処理能力を高め、情報共有による業務の効率化がより一層図れるように、ICT（情報通信技術）を積極的に活用するなど、職員が働きやすい環境づくりに取り組むこと。 ●9月に開設した「ふらっとほむむ」に関しては、施設機能を最大限に活用し、適正な施設運営が図れるよう、広報活動を積極的に行いながら新規利用者の増員を目指し取り組むこと。 ●職員の能力や業績を公正に評価し、適切な人事処遇や人材育成を通じて社協組織と職員双方の成長を促進するため導入する人事考課制度については、より良い評価制度として運用していけるよう、試行錯誤しながら十分検討を重ねること。 ●社会福祉協議会は通常における地域福祉諸事業の実施に加え、災害や緊急時においても地域福祉推進の中核機能として重要な役割を求められているが、この役割を果たすためには、専門性を有した職員が業務に専念できる環境整備の構築が必要であり、安定的な財源確保が必要不可欠である。そのため、市に対する財政支援要望については、今後ともねばり強く交渉を重ねながら、公費補助のルールづくりが実現できるよう働きかけていくこと。	南あわじ市社協 203会議室

《評議員会》

() 内数字は、役員の出席人数

月日	内容	出席者数	場所
R7.6.26	【報告事項】 ①令和6年度一般会計収支予算第3次補正について ②令和6年度事業報告について ③令和6年度一般会計収支決算について ④監事監査結果について 【審議事項】 ①理事の選出について ②監事の選出について	22/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室

R8.1.16	【審議事項】 ①令和7年度上半期事業報告について ②令和7年度上半期一般会計決算報告について ③監事監査結果報告について ④令和7年度第1次補正予算について ⑤理事の選任について 【報告事項】 ①なでしこデイサービスセンターの運営について	19/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R8.3.30	【審議事項】 ①令和7年度第2次補正予算（案）について ②令和8年度事業計画（案）について ③令和8年度一般会計収支予算（案）について 【報告事項】 ①職員の異動について ②「ふらっとほむ」地域交流スペースの運用開始について	23/28 (2)	南あわじ市社協 203会議室

《評議員選任・解任委員会》

月日	内容	出席者数	場所
R7.6.19	【審議事項】 第1号議案 評議員の解任について 第2号議案 評議員の選任について	5/5	南あわじ市社協 202会議室
R7.12.24	【審議事項】 第1号議案 評議員の解任について 第2号議案 評議員の選任について	5/5	書面開催

《支部長会議》

月日	内容	出席者数	場所
R7.5.14	①令和7年度社会福祉事業助成金配分案について ②福祉推進ネットワーク代表者会議設置に向けたスケジュール等について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R7.7.9	①令和7年度の支部の活動について ②役職員合同研修について	4/4	南あわじ市社協 202会議室
R7.9.26	①支部運営委員会の情報共有 ②地域福祉推進ネットワーク会議について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R7.12.9	①支部運営委員会の情報共有 ②南あわじ市社協地域福祉フォーラムについて	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R8.2.4	①支部運営委員会の情報共有 ②地域福祉推進ネットワーク会議について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R8.3.19	①支部運営委員会の情報共有 ②地域福祉推進ネットワーク会議について	4/4	南あわじ市社協 203会議室

■内部牽制体制の点検

事故や苦情があったことは報告書にまとめ、管理職・部署内で共有し、同じミスを繰り返さないように改善策を検討しながら運営しています。今後もヒヤリハットも含めて軽微な事故や異常の時点で予防策を考え、重大な1件の事故を防ぐよう努めていきます。

部・所名	種別	件数	主な内容
総務・地域	苦情	1	職員の態度
	事故	7	車輛事故、書類紛失、印鑑紛失、器物破損
訪問介護	苦情	0	
	事故	13	サービスの未提供、買い物ミス、外傷、転倒、車輛事故
居宅介護支援	苦情	0	
	事故	0	
相談支援	苦情	0	
	事故	0	
生活介護	苦情	1	確認ミス
	事故	10	車両破損、送迎職員配置ミス、私物破損、配薬ミス、誤嚥
児童・放デイ	苦情	1	電話相談への不適切な対応
	事故	5	軽度の外傷、療育中止の連絡漏れ
ふらっとほうむ	苦情	0	
	事故	7	転倒、器物破損、外傷、利用者間トラブル

【改善に着手した内容と成果】

※苦情・事故の有無に関係なく改善に着手したものを記載しています。

部・所名	着手した点	内容と成果
総務・地域	戦略会議の定期開催 日常生活自立支援事業要綱の改定 重要書類・預かり物の定期的なチェック ワーカー連会会議での共有・検討	会議での検討の時間は、資質向上や事業運営について振り返る機会となり、職員の意識向上につながった。また、苦情・事故内容に関する改善点を定例会議で話し合うことで、迅速な取り組みにつながった。
訪問介護	職員の熱中症対策支援	入浴介助以外に、訪問先にはエアコンや扇風機のない家もあり、移動の時には車が冷えない間に次の訪問先に到着するなど、暑い中でも時間通りに動く職員に対し、熱中症対策として4品のなかから希望する物を支給した。
居宅介護支援	介護報酬請求業務の体制整備	請求業務は管理者が担っていたが、有事の際に備え、どの職員でも請求業務を行うことができるようマニュアルを作成。毎月、交代制で請求業務を行う体制とした。また、請求ミスにつながらないように、内部で確認のため使用している様式を誰が見ても分かるよう見直しを行った。

相談支援	基本に立ち返った業務の見直し 必要書類等の共通理解	職員体制が整ったことで、改めて日頃の業務を見直し、制度や必要書類についての共通理解を図る機会をもった。
なでしこ デイサービス 生活介護	地域との交流 家族支援の強化 新規事業所立ち上げと今後の事業 展開について検討	全島一斉清掃に係る広田地区公民館での清掃活動に、利用者、職員が参加した。 ふらっとほうむと合同で家族参加の運動会と家族会を実施し、家族間の交流や、家族の思いを共有する場をもった。
なでしこ デイサービス 児童・放デイ	家族支援の強化 業務改善に向けた取り組み	「コミュニケーションと言葉の発達」「サポートファイル」についての家族支援セミナーと懇談会を2回、家族対象の「おしゃべり会」を1回実施した。 残業時間減も含めた職員の働き方改革や今後の事業展開について検討した結果、令和8年度末に放課後等デイサービスを休止することになった。
ふらっとほうむ	利用者の獲得に向けた広報活動	自立支援協議会相談部会、各相談支援事業所へ足を運び、営業を行った。また、Instagramや「ふらっとほうむだより」を通じて、広報活動を行った。

■諸規定の点検と改定

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	令和7年度は下記の規則等を見直し、改定しました。 就業規則、育児・介護休暇等に関する規則の改定 経理規程の改定 各事業所の運営規程の改定 日常生活自立支援事業要綱等の改定 善意銀行購入補助事業等の要綱の改定
-------------------------------	--

●災害時にも対応できる体制づくりをすすめます

■事業継続計画（BCP）に基づいた研修・訓練

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	内部研修を活用し、BCPに基づいた緊急災害時行動マニュアル（携行版）を配布し、各部署でそれぞれの行動を話し合いました。非日常を想定した訓練を行うことで、初動スピードや判断力・応用力の向上をめざします。
-------------------------------	--

■災害ボランティアセンターの設置訓練など

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	11月16日（日）に市小学校で行われた南あわじ市総合防災訓練に参加し、社会福祉法人連絡協議会、ひのきしん隊と連携して災害ボランティアセンター設置運営訓練を行いました。南海トラフ地震が発生した災害想定のもと、各グループに分かれ、近隣へのニーズ調査を行いました。
-------------------------------	---

■災害救援機材・備品の点検と備蓄

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性等)	1月23日（金）に防災訓練を実施し、発電機・蓄電池の使用方法を確認しました。また、各事業所で管理している備品の在庫確認も行いました。年に1回の実施を定着していきます。
-------------------------------	---

■DWATについて検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	社会福祉法人連絡協議会が事務局となって、年に1回登録者情報の更新作業を行っています。「災害時にチームで動ける」ように、市内登録者を対象とした研修会や訓練の実施を検討していきます。
-----------------------------------	--

◎「活動をすすめるための基盤整備と財源確保」

●組織の基盤強化をすすめます

■社協基盤強化計画の策定

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	訪問介護となでしこデイサービスセンター、ふらっとほうむでは、介護・福祉分野で働く職員の待遇を向上させることを目的にした処遇改善加算を算定しています。加算の算定有無に関わらず、人材確保 → 定着 → サービス向上という好循環を作るため、「入職促進に向けた取り組み」「資質の向上やキャリアアップに向けた支援」「両立支援・多様な働き方の推進」「健康管理」「生産性向上（業務改善及び働く環境改善）のための取り組み」など、法人全体のしくみとして、取り組んでいきます。
-----------------------------------	---

■行政・議会とのパートナーシップ

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	7月7日（月）に早朝懇談会を実施しました。テーマに基づいた意見交換を行うことで、社協組織への理解を深めていただく機会となりました。継続的な実施ができていないため、計画的な開催に向けて検討していきます。
-----------------------------------	---

■関係団体との連携

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	淡路3市の社会福祉協議会で組織する「淡路島の社会福祉協議会（職員協）」は、地域福祉の推進を目的とする社会福祉事業の円滑なる増進と知識の向上を図り、会員相互の連絡調整に努めることを目的とし、平成22年から続いています。令和7年度は、業務研究会（2回）、先進地視察研修（新温泉町社協）、交流事業（2回）を実施しました。他市の社協との交流は、狭い地域の視点にとらわれず、客観的に自組織を見つめ直す機会にもつながっています。
-----------------------------------	---



【職員協視察研修】

●財源の確保につとめます

■自主財源（会費・善意銀行等）確保に向けた活動の推進

寄附者の思いを地域に返していけるように、用途を明確に示しながら理解を求めています。また、社協を身近に感じてもらえるようにSNSやインターネットの活用も検討し、財源の確保に向けた工夫をしていく必要があります。

《一般会費》

地区	金 額（円）	件数	地区	金 額（円）	件数
広田	452,000	904	神代	322,500	645
倭文	195,000	390	倭文	60,500	121
松帆	438,500	827	志知	89,500	179
湊	250,000	500	福良	795,150	1,767
津井	188,500	377	賀集	448,500	897
阿那賀	206,500	413	北阿万	258,000	516
伊加利	64,000	128	潮美台	214,500	429
志知	102,000	204	阿万	439,000	878
榎列	377,000	754	灘	99,500	199
八木	408,000	816	沼島	64,000	128
市	391,000	812	計	5,863,650	11,884

《賛助・特別会費》

	金 額（円）	件数(口数)
賛助会費	15,000	15
特別会費	223,500	105
計	238,500	120



《共同募金運動への協力》

(円)

広域目標額	地域目標額	期間拡大目標額	地域歳末目標額	実績額
883,000	7,417,000	1,000	1,131,000	1,780,372



《募金内訳》

募金方法	実績額（円）	件 数
一般募金	8,272,993	12,183
戸別募金	5,918,750	戸数 11,463 戸
街頭募金	181,754	回数 18 回
法人募金	1,725,276	件数 586 件
学校募金	160,168	学校数 35 件
職域募金	134,045	職域数 5 件
イベント募金	0	回数 0 回
個人募金	20,000	個人数 4 件
その他募金	133,000	件数 72 件

歳末たすけあい募金	1,121,915		11,455	
戸別募金	1,000,050	戸数	11,447	戸
職域募金	112,503	件数	3	件
個人募金	9,145	件数	3	件
その他募金	217	件数	2	件

※期間中に受入した募金のみ記載

《戸別募金(一般募金・歳末募金)》

地区	金 額 (円)	件数	市		
広田	589,400	1,694	神代	492,800	1,622
倭文	247,500	765	倭文	400,200	1,276
松帆	434,100	1,774	三原志知	73,500	244
湊	371,000	1,060	福良	109,200	352
津井	150,100	512	賀集	856,000	3,534
阿那賀	239,700	822	北阿万	627,900	1,794
伊加利	75,100	234	潮美台	361,200	1,032
西淡志知	115,300	408	阿万	230,300	858
榎列	407,700	1,464	灘	363,800	1,212
八木	545,100	1,630	沼島	139,300	398
				89,600	256

《共同募金配分金の活用(配分計画)》

事業分類		件数	金額 (円)	備考
高齢者	日常生活支援	2	100,000	独居老人見守り事業、友愛訪問・声掛け運動
	社会参加・まちづくり支援	8	1,164,293	世代間交流事業、出張認知症カフェ、ふれあい・いきいきサロン助成事業など
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小 計	10	1,264,293	
障がい児・者	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	6	269,000	障害者宅訪問活動、社会参加事業、ユニバーサルビーチ
	社会福祉施設支援	2	100,000	生活支援事業など
	その他の地域福祉支援	2	19,000	コミュニケーション訓練及び交流事業など
	災害対応・防災	0	0	
	小 計	10	388,000	
児童・青少年	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	7	246,000	夏祭り事業、うどん打ち体験、親子日帰りツアー
	社会福祉施設支援	1	100,000	世代間交流事業
	その他の地域福祉支援	3	280,000	子育て支援事業、野外体験事業、子ども食堂、野外活動
	災害対応・防災	0	0	
	小 計	11	626,000	

課題を抱える人	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	0	0	
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小 計	0	0	
住民その他	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	4	320,000	福祉まつり
	社会福祉施設支援	47	4,959,249	地区社協活動、社協事業、地域活動など
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小 計	51	5,279,249	
合 計		82	7,557,542	

《善意銀行（寄附金）》

（ア）金銭預託

No.	月 日	地 区	預 託 者	預 託 内 容
1	4月2日	倭文	匿名	地域福祉のために
2	4月4日	八木	藤江 時恵	地域福祉のために
3	4月2日	市	山口 利子	地域福祉のために
4	4月4日	榎列	昭和35年度榎列小学校卒業生同窓会	地域福祉のために
5	4月14日	南あわじ市	中川 春水	地域福祉のために
6	4月18日	賀集	川口一級建築設計事務所	子どもたちのために
7	4月30日	阿那賀	眞野 幸雄	地域福祉のために
8	5月7日	市	山口 勇	地域福祉のために
9	5月22日	松帆	匿名	地域福祉のために
10	5月27日		匿名	地域福祉のために
11	5月28日	阿万	匿名	地域福祉のために
12	6月9日	市	山口 利子	地域福祉のために
13	6月30日	北阿万	楠本 はつみ	地域福祉のために
14	7月1日	市	匿名	地域福祉のために
15	7月15日	八木	藤江 時恵	地域福祉のために
16	7月25日	市	山口 勇	地域福祉のために
17	8月19日	阿万	阿万六期会	地域福祉のために
18	9月1日	市	山口 利子	地域福祉のために
19	9月1日	市	山口 勇	地域福祉のために
20	9月4日	南あわじ市	中川 春水	地域福祉のために
21	9月10日		匿名	地域福祉のために
22	10月1日	倭文	匿名	地域福祉のために

23	10月1日		匿名	地域福祉のために
24	10月1日	八木	藤江 時恵	地域福祉のために
25	11月4日		匿名	地域福祉のために
26	11月18日	市	元淡路三原ロータリークラブ	社協事業のために
27	12月5日	榎列	二里 秋枝	地域福祉のために
28	12月15日	市	匿名	地域福祉のために
29	12月23日	南あわじ市	西淡民生委員児童委員協議会	地域福祉のために
30	12月25日	洲本市	大黒 なほ子	地域福祉のために
31	1月15日	八木	藤江 時恵	地域福祉のために
32	1月20日	南あわじ市	中川 春水	地域福祉のために
33	1月30日	市	匿名	地域福祉のために
34	2月12日	八木	八木地区老人会会長会	地域福祉のために
35	2月16日	八木	喜田 久美子	子どもたちのために
36	2月24日	賀集	賀集西戌会	地域福祉のために
37	3月25日	大阪	山田 逸子	亡父の供養として
38	3月30日	南あわじ市	阿万老連24年OB会	地域福祉のために
39	3月31日	松帆	匿名	地域福祉のために

(イ) 物品預託

品 名	上半期(件数)	下半期(件数)
プルタブ	66	100
牛乳パック	48	40
古切手	52	66
食 材	22	22
介護用品	11	13
手作り作品	10	18
その他(書き損じはがき・ヘルマークなど)	66	108
計	275	367

(ウ) 払い出し

事 業 名	件数	払出金額(円)	目 的
シルバーカー 購入助成事業 (上限5,000円)	17	85,000	歩行に支障のある高齢者の日常生活の利便性を向上させ、外出など歩行時の安全確保を図ることにより、高齢者の福祉の増進及び心身の機能維持に資することを目的に行っています。
チャイルドシート・ベビー カー購入助成事業 (上限5,000円)	51	252,916	子どもたちの健全育成と安全・安心の確保を図ることにより、広く子育て支援に資すること目的とする。
安全坊や設置事業	22	154,340	安全坊やを配布することにより、歩行者や自動車などの運転手への注意喚起を促し、住民の安全な移動を確保することを目的とする。

※上記以外にも地域からの相談や要望に応じて、必要な払い出しを行っています。

■自主財源（事業収入）確保に向けた事業の推進

安定したサービス提供を行うためにも、実績の分析と評価を繰り返し行い、改善に向けた取り組みを共有していきます。事業運営に必要な人材確保をすすめ、適正な運営を目指します。

《介護保険サービス》

（ア）居宅介護支援事業

◆月別介護報酬の状況

（単位：円）

月	7年度	6年度	比較
4月	1,581,860	1,516,910	64,950
5月	1,546,260	1,572,900	△ 26,640
6月	1,547,350	1,515,000	32,350
7月	1,584,280	1,681,730	△ 97,450
8月	1,618,960	1,555,860	63,100
9月	1,593,370	1,558,860	34,510
10月	1,589,870	1,680,490	△ 90,620
11月	1,542,350	1,607,870	△ 65,520
12月	1,557,010	1,561,860	△ 4,850
1月	1,502,910	1,556,100	△ 53,190
2月	1,581,020	1,621,540	△ 40,520
3月	1,596,860	1,620,710	△ 23,850
合計	18,842,100	19,049,830	△ 207,730

（イ）訪問介護事業

◆月別介護報酬の状況

（単位：円）

月	7年度	6年度	比較
4月	1,504,682	2,012,924	△ 508,242
5月	1,477,814	2,078,819	△ 601,005
6月	1,491,498	1,783,805	△ 292,307
7月	1,631,816	1,870,007	△ 238,191
8月	1,502,222	1,936,977	△ 434,755
9月	1,562,396	1,815,377	△ 252,981
10月	1,453,004	1,733,227	△ 280,223
11月	1,639,400	1,723,497	△ 84,097
12月	1,465,006	1,748,930	△ 283,924
1月	1,378,163	1,498,814	△ 120,651
2月	1,318,025	1,376,768	△ 58,743
3月	1,418,755	1,388,097	30,658
合計	17,842,781	20,967,242	△ 3,124,461

《障害福祉サービス》

(ア) 居宅介護等事業(ヘルプ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	1,915,740	2,165,498	△ 249,758
5月	1,903,970	2,147,162	△ 243,192
6月	1,893,650	1,786,973	106,677
7月	1,946,240	2,159,383	△ 213,143
8月	1,913,170	1,905,636	7,534
9月	1,997,660	2,034,093	△ 36,433
10月	2,057,330	1,969,000	88,330
11月	1,588,400	1,846,892	△ 258,492
12月	1,848,490	1,752,030	96,460
1月	1,675,340	1,713,440	△ 38,100
2月	1,783,490	1,745,480	38,010
3月	2,085,010	1,994,930	90,080
合計	22,608,490	23,220,517	△ 612,027

(イ) 相談支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	1,601,620	1,873,300	△ 271,680
5月	1,629,930	1,899,650	△ 269,720
6月	1,349,420	1,362,570	△ 13,150
7月	1,025,840	1,376,000	△ 350,160
8月	1,519,870	1,623,300	△ 103,430
9月	1,389,130	1,445,080	△ 55,950
10月	1,367,360	1,496,120	△ 128,760
11月	1,409,370	1,870,390	△ 461,020
12月	1,139,220	1,709,930	△ 570,710
1月	1,400,680	1,403,910	△ 3,230
2月	1,088,210	1,220,700	△ 132,490
3月	1,643,850	1,832,650	△ 188,800
合計	16,564,500	19,113,600	△ 2,549,100

(ウ) 移動支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	28,750	11,400	17,350
5月	12,050	7,800	4,250
6月	48,150	11,760	36,390
7月	13,650	7,000	6,650
8月	23,340	9,450	13,890
9月	15,120	4,300	10,820
10月	9,050	2,700	6,350
11月	2,250	9,200	△ 6,950
12月	10,600	7,350	3,250
1月	8,700	3,500	5,200
2月	12,917	7,050	5,867
3月	27,997	8,100	19,897
合計	212,574	89,610	122,964

(エ) 生活介護(なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	3,259,260	3,514,090	△ 254,830
5月	3,618,010	3,612,230	5,780
6月	3,642,880	3,203,930	438,950
7月	3,771,370	3,556,060	215,310
8月	2,803,610	2,982,370	△ 178,760
9月	3,197,660	3,286,870	△ 89,210
10月	3,024,710	3,759,070	△ 734,360
11月	2,570,560	3,343,230	△ 772,670
12月	2,813,450	3,136,570	△ 323,120
1月	2,584,810	2,779,130	△ 194,320
2月	2,699,750	2,884,650	△ 184,900
3月	2,723,240	3,222,700	△ 499,460
合計	36,709,310	39,280,900	△ 2,571,590

(オ) 児童発達支援 (なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	1,089,300	1,235,150	△ 145,850
5月	1,179,060	1,059,090	119,970
6月	1,333,180	1,261,380	71,800
7月	1,133,436	1,257,516	△ 124,080
8月	1,090,570	1,295,310	△ 204,740
9月	1,213,750	1,239,874	△ 26,124
10月	1,127,800	1,443,110	△ 315,310
11月	1,102,616	1,396,020	△ 293,404
12月	1,314,454	1,450,890	△ 136,436
1月	1,189,468	1,448,790	△ 259,322
2月	1,181,810	1,382,160	△ 200,350
3月	1,319,570	1,363,450	△ 43,880
合計	14,275,014	15,832,740	△ 1,557,726

(カ) 放課後等デイサービス (なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	638,826	829,776	△ 190,950
5月	807,031	811,797	△ 4,766
6月	764,180	717,071	47,109
7月	810,946	770,151	40,795
8月	764,048	792,810	△ 28,762
9月	802,167	799,781	2,386
10月	764,039	796,300	△ 32,261
11月	756,969	731,168	25,801
12月	746,862	710,991	35,871
1月	768,108	777,020	△ 8,912
2月	805,078	994,243	△ 189,165
3月	790,074	786,417	3,657
合計	9,218,328	9,517,525	△ 299,197

(キ) ふらっとほうむ

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	7年度	6年度	比較
4月	—	—	—
5月	—	—	—
6月	—	—	—
7月	—	—	—
8月	—	—	—
9月	190,460	—	—
10月	579,850	—	—
11月	513,330	—	—
12月	529,740	—	—
1月	641,240	—	—
2月	732,600	—	—
3月	1,007,490	—	—
合計	4,194,710	—	—

■公費財源ルールづくりに向けた協議の本格化

補助、受託事業の目的を再確認しながら、組織運営に必要な財源が確保できるように行政に働きかけています。令和8年度予算において、補助金の見直しとルール化の実現と事業を円滑にすすめられるような体制づくりに向け担当部局と協議しています。

《補助金》

(単位：円)

名称	7年度	6年度	比較
ひょうご災害ボランティア活動サポート事業補助金(県)	1,000,000	1,000,000	0
ボランティア災害共済運営事務費等(県)	35,000	34,000	1,000
生活困窮者支援体制強化事業補助金(県)	5,792,000	5,792,000	0
福祉コミュニティづくり推進事業(市)	21,500,000	21,500,000	0
市町ボランティア活動支援事業(市)	1,000,000	1,000,000	0
サービス継続支援事業補助金(県)	548,000	726,000	△ 178,000
人材確保・職場環境改善事業補助金(県)	866,911	0	866,911
光熱費等高騰対策一時支援金(県)	161,700	43,000	118,700
社会福祉施設等物価高騰対策支援金(市)	358,000	252,000	106,000
社会福祉法人等奨学金返済支援事業補助金(県)	114,924	54,924	60,000
合計	31,376,535	30,401,924	974,611

《受託金》

(単位：円)

名称	7年度	6年度	比較
福祉サービス利用援助事業	2,519,000	2,491,000	28,000
生活福祉資金貸付事業	395,447	425,447	△ 30,000
共助の基盤づくり事業	3,998,500	3,998,500	0
生活困窮者自立相談支援事業	7,499,800	7,499,800	0
第2層生活支援体制整備事業	8,000,000	8,000,000	0
相談支援事業	6,665,500	6,665,500	0
基幹相談支援事業	2,230,000	2,230,000	0
要介護認定調査事業	66,000	8,800	57,200
介護予防支援事業	167,560	153,360	14,200
障害程度区分認定調査事業	193,600	246,400	△ 52,800
ｽﾎｰﾙｸﾘｰﾍﾞﾝｸﾞ教室等開催事業	300,000	300,000	0
視覚障害者ﾊﾟﾛﾝｸﾞ教室開催事業	200,000	200,000	0
合計	32,235,407	31,718,807	16,600